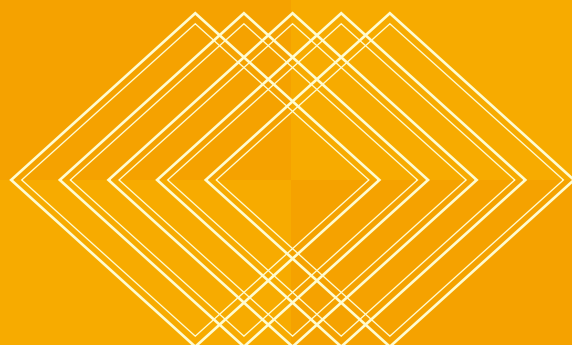


第13回 東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」 FD・ワークショップ — 報告書 —



令和2年3月



東北大学

東北大学学務審議会
高度教養教育・学生支援機構

第13回 東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ

日 時 : 令和元年11月6日(水) 13:00~16:00

場 所 : マルチメディア教育研究棟2階 M206

内 容 :

1. 開会挨拶 13:00

学務審議会委員長 滝澤 博胤

2. オリエンテーション

「全学教育における基礎ゼミ及び展開ゼミの意義と実施に向けて」 13:05

学務審議会基礎ゼミ委員会委員長 中村 教博

「基礎ゼミ実施に係る経費及びTA等について」

教育・学生支援部教務課

3. 講演

「配慮を要する学生の理解と対応」 13:40

学生相談・特別支援センター講師 中岡 千幸

学生相談・特別支援センター特任講師 榊原佐和子

~~休憩10分~~

4. 基礎ゼミ実践事例の報告 14:10

① 「科学の力で世の中をモデル化しよう」～実験・実習型ゼミ実践事例

サイクロトロン・RI センター助教 田中香津生

② 「フィールド社会技術学について ～フィールドワーク入門～」

～フィールドワーク型ゼミ実践事例

農学研究科准教授 米澤 千夏

③ 「教育のオルタナティブ(今とは違うあり方)を構想する」～演習型ゼミ実践事例

教育学研究科准教授 後藤 武俊

5. グループディスカッション 15:10

A～Cの3グループに分かれ、事例報告者を交え、授業の工夫等について意見交換をする

Aグループ: 田中香津生助教 Bグループ: 米澤千夏准教授 Cグループ: 後藤武俊准教授

6. 全体討議(各グループの報告・質疑応答) 15:45

7. 閉会 16:00

司会: 基礎ゼミ委員会委員 菅谷 奈津恵

主催: 学務審議会 高度教養教育・学生支援機構



開 会 挨 拶
学務審議会委員長 滝澤 博胤



オリエンテーション
学務審議会基礎ゼミ委員会委員長 中村 教博



基礎ゼミ実践事例の報告
サイクロトロン・RI センター助教 田中 香津生



基礎ゼミ実践事例の報告
農学研究科准教授 米澤 千夏



基礎ゼミ実践事例の報告
教育学研究科准教授 後藤 武俊



全 体 司 会
学務審議会基礎ゼミ委員会委員 菅谷 奈津恵



講演「配慮を要する学生の理解と対応」

学生相談・特別支援センター講師 中岡 千幸

学生相談・特別支援センター特任講師 榊原佐和子



グループディスカッション A グループ

「科学の力で世の中をモデル化しよう」実験・実習型ゼミ実践事例



グループディスカッション B グループ

「フィールド社会技術学について ～フィールドワーク入門～」フィールドワーク型ゼミ実践事例



グループディスカッション C グループ

「教育のオルタナティブ(今とは違うあり方)を構想する」演習型ゼミ実践事例

1. オリエンテーション

「全学教育における基礎ゼミ及び展開ゼミの
意義と実施に向けて」

学務審議会基礎ゼミ委員会委員長 中村 教博



TOHOKU
UNIVERSITY

第13回 東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FDワークショップ
2019年11月6日（水）



全学教育における基礎ゼミ・ 展開ゼミの意義と実施

東北大学
学務審議会 基礎ゼミ委員会
委員長 中村教博
(高度教養教育・学生支援機構)

本日のながれ

- ① 基礎ゼミ・展開ゼミの意義と実施
- ② 基礎ゼミ実施上の事務的な留意点
- ③ 講演：「配慮を要する学生の理解と対応」
- ④ 実践事例の報告 基礎ゼミ 3件 （ワークシート利用）
- ⑤ ワークショップ（グループディスカッション）

→ 基礎ゼミ担当者の実践例を参考に、授業デザイン共有化

基礎ゼミ（2002年度～）

新入生対象(99%受講)・前期開講

20名程度少人数クラス

最大23名までご了承ください

※1
全学教員担当

※2
約170クラス

文理融合

授業評価高い

※1：本学の全研究科・研究所などから授業担当教員

※2：1クラスあたりの受講者、平均15名

基礎ゼミの授業形態

講義形式



能動的学修

教員→一方的な知識伝達

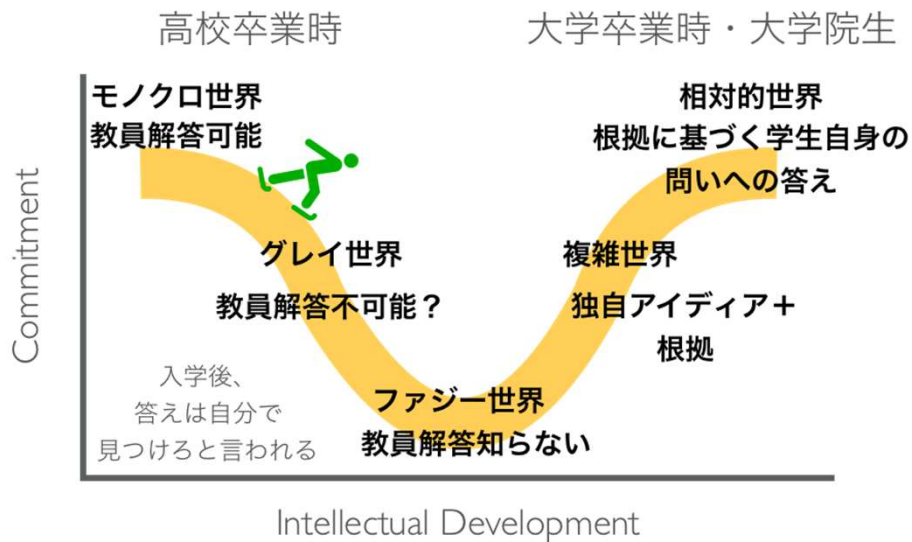
学生→聴講するだけで楽

教員→学生に問題意識を与え、
あとは見守る存在

学生→主体的に調査、観察、
仮説検証、体験、討論、発表し、
“主体的・対話的な深い学び”を
体験する

基礎ゼミが目指す学びの転換

受験学習

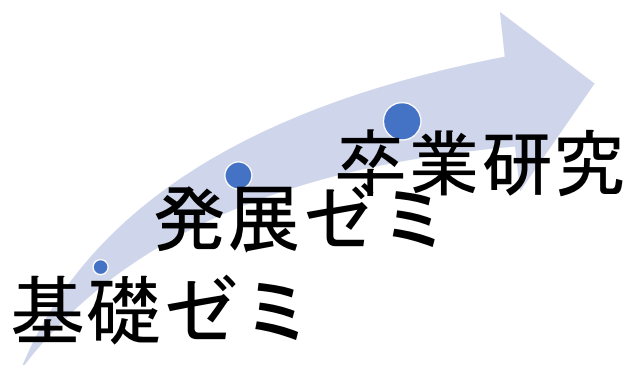


主体的学習

Perry, W. G. (1970), Forms of Intellectual and Ethical Development in the College Years: A Scheme (New York: Holt, Rinehart, and Winston)
→Wankat & Oreovicz (2015), Teaching Engineering (2nd ed.), Purdue Univ. Press, Ch.14 (<http://www.thepress.purdue.edu/titles/format/9781612493626>)

展開ゼミ（2013年度～）

- 「基礎ゼミ」の発展版（基礎ゼミをより高度に実践）
- 学生の要望、教員からの意見→後期にも開講希望



新しい学習指導要領

(2020年から小学校～高等学校で
順次時開始)

「主体的・対話的で深い学び」

の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」重視

○個々の知識の繋がり「おもしろい」 ○見通しをもって粘り強く

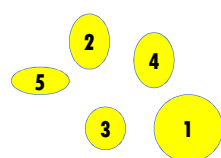
○まわりと共に考え、新しい発想 ○自分の学びを振り返る

大学ではどうする？

講義：事例紹介

講義：実験・議論

レポート：振り返り → 応用

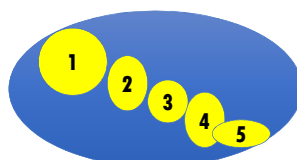


Ideas(知識)

主体的経験



変換



Connections (組合せ)

意味付け・価値を見出すこと



問題解決に
発展

Extensions (応用)

スー・ヤング他(2013)「主体的学び」東信堂

基礎ゼミの授業デザイン

- 今年度の授業評価の高い授業について事例紹介（3件）
- 事例紹介＋先生方のアイデア工夫で授業デザイン
- 配布のワークシート→授業デザインのためのアイデア整理
- アイデア整理 → シラバス作成のアウトライン

授業デザインとしてのシラバス

・シラバス →

- 1) 授業題目 **学生の科目選択の助け**
- 2) 学習成果の明示（概要・到達目標） **獲得できる内容**
- 3) 授業内容・方法（各回の授業内容） **具体的な授業内容**
- 4) 成績評価法 **どのように評価するのかについての学生と教員との契約**
- 5) 時間外学習 **授業外でどんな学修を期待するのか**
- 6) 参考図書（関連URL）

来年度 = BYOD導入 → デバイス利用の授業デザイン

授業デザインとしてのシラバス 観点 1：学習成果の明示

初年次学生に獲得させたい学修成果を明示

初年次学生にも理解できる語彙・表現で記述

学修成果獲得に向けて、授業内容を設計

授業デザインとしてのシラバス 観点2：学生の能動的学修を施す工夫

授業内容は学生主体か？

他者との議論・仮説検証実験・振り返り

授業前に調べ学修をしているか？

学生同士の議論、実験、体験、演習
教員からの一方的な指示・知識伝達



授業デザインとしてのシラバス 観点3：成績評価方法の明記

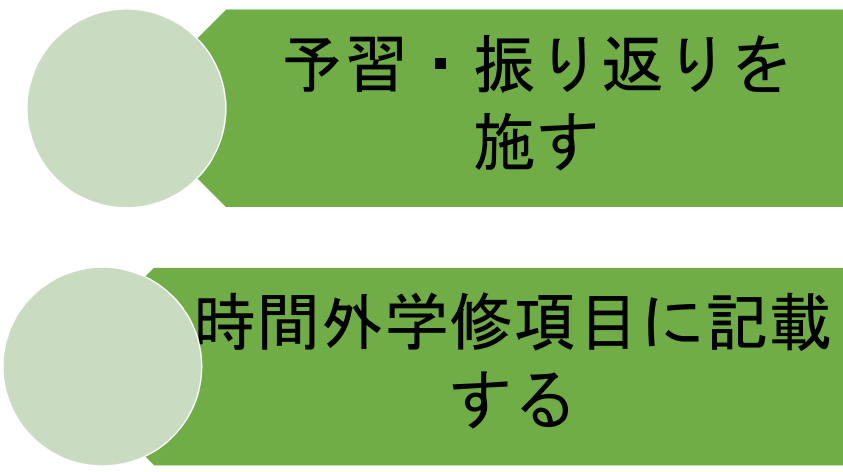
どんな点で評価するのか？

評価の比重や配点

評価ポイントが動機付けになっているか？

評価ポイント明記
学生の主体的活動の指針
評価ポイントは具体的に明記
評価方法の説明

授業デザインとしてのシラバス 観点4：時間外学修を施す工夫



予習・振り返りを
施す

時間外学修項目に記載
する

授業評価アンケート↓
時間外学修ほぼゼロ回答 多数
シラバスに時間外学修なし 人気

基礎ゼミのテーマ設定の留意点

多人数に知識

自学自習で自分の興味で学修

- 大学教育への導入（**Push & Pull**型の学修）
- 教員からの知識の供与＋学生が知恵を学ぶ取る
- 文系・理系混合クラスでの授業運営
- 学部横断的科目で、オープンクエストに多次元的に挑戦できるような課題設定

基礎ゼミ 実施スケジュール

時期	内容
11月中旬	基礎ゼミ シラバス作成 依頼
12月中旬	基礎ゼミ シラバス作成 締め切り
1月上旬	TA配置希望照会（配置基準有）
3月上旬	TA配置認定結果通知・採用予定者照会
3月中旬	TA採用予定者提出期限・実施経費申請等の案内
4月8日から	全学教育の授業開始
4月14日	基礎ゼミのクラス分け（掲示）15日受講者名簿DL可能
4月16日・20日	基礎ゼミ 初回授業開始
5月上旬	基礎ゼミの授業評価アンケート用紙配布
9月下旬	基礎ゼミ成果発表会 開催

基礎ゼミ成果発表会（9月末ごろ開催）

基礎ゼミで学んだ成果の公開発表
 学生の主体的運営
 参加者の投票での受賞



口頭発表の様子



ポスター発表の様子（1ヶ月公開）

実践事例報告とワークショップ

学生授業評価の高いテーマ

- ① 実験・実習型ゼミ実践事例 → Aグループ
「科学の力で世の中をモデル化しよう」
サイクロトロン・RIセンター 田中 香津生 先生
- ② フィールドワーク型ゼミ実践事例 → Bグループ
「フィールド社会技術学について～フィールドワーク入門～」
農学研究科 米澤 千夏 先生
- ③ 演習型ゼミ実践事例 → Cグループ
「教育のオルタナティブ(今とは違うあり方)を構想する」
教育学研究科 後藤 武俊 先生

ファシリテーター

中川学 山内保典 佐藤智子

A

B

C

スクリーン

ワークショップ

- ・ワークシートを用意 → 実践事例報告時にワークシートにメモ
→ シラバス作成のアウトライン材料
- ・グループ内での質疑応答（別グループへの変更可能）
- ・学生の主体性を育む授業方法(授業デザイン)と工夫について討論
- ・グループごとの討論内容を全体討論で情報共有

ご清聴ありがとうございました

つぎは、基礎ゼミに関する事務手続きの説明

「基礎ゼミ」実施に当たっての留意事項

1. 受講者の決定について

新入生は、大学から入学前に事前に送付される「基礎ゼミの手引（シラバス）」を参考にして、受講を希望する課題を第5希望まで選び「基礎ゼミ受講希望届」を入学後のオリエンテーション時に提出します。この「基礎ゼミ受講希望届」を基に、電算処理によってクラス分けを行います。

また、2年生以上の学生が受講を希望する場合も同様のクラス分けを行います。

クラス分けの結果については、学生には掲示及び全学教育ホームページにより発表します。各担当の先生方は学務情報システムより受講者名簿をダウンロード願います。

注： 2年生以上の学生が新入生と一緒に受講する場合があることを予め了承願います。
(支障がある場合は、事前にお知らせ願います。)

注： 後述4-②の関係で、クラス分け後に履修者の追加をお願いすることがあります。
その際は、可能な限り受け入れてくださるようお願いいたします。

2. 初回の授業について

一般の授業の開始日は令和2年4月8日（水）ですが、「基礎ゼミ」の授業のみクラス分け作業のため、4月16日（木）から始まります。

3. 開講から成績報告までの流れ

開講から成績報告までのスケジュールについては8ページ（本報告書では22ページ—編集者）をご覧ください。

4. 集中講義を行う場合について

① オリエンテーションの実施

「基礎ゼミ」を集中講義で実施される場合、集中講義の日程及び場所等を周知するため、オリエンテーションを実施していただく必要があります。

オリエンテーションの実施日時については、「基礎ゼミ」専用時間帯の

4月16日（木）5講時

4月20日（月）3，4，5講時

の中のいずれかの時間帯に必ず実施くださるようお願いいたします。

ただし、4月16日（木）5講時及び4月20日（月）5講時は、講義棟C棟が学生の課外活動で使用されるため、十分な教室数を確保できない状況にあります。

オリエンテーションの実施については、できる限り4月20日（月）3講時または4講時のいずれかで実施くださるようご協力をお願いいたします。

※ オリエンテーションの日時・場所については、基礎ゼミシラバスに記載してください。（シラバス作成については別途依頼します。）

② 実施日程決定時の注意事項

集中講義の日程を決定する際には、受講学生と十分に話し合って決めて下さい。

成績報告期限に間に合う日程での開講に、ご協力をお願いいたします。通常の授業期間中（平日）には、他の授業と重複するため集中講義を実施できません。

夏季休業中に行われる科目（集中講義や専門科目の実習等）の履修者がいる場合、期間が重複する日程での開講は避けてください（学生は同時に履修できませんので、いずれかを履修できなくなります）。

どうしても調整がつかない場合は、基礎ゼミのクラス変更となります。そのため、集中講義で開講される場合は、必ず前述4－①の期間のいずれかに、初回オリエンテーションを行ってください（それ以後に日程重複が判明した場合、クラス変更は難しくなります）。

参考：授業期間

4月 8日（水）～8月 5日（水）

成績報告期限

8月21日（金）予定

※やむを得ず9月以降に集中講義を実施する場合は、早急に成績報告をしていただくようご協力をお願いいたします。

教職科目の集中講義

9月7日（月）～25日（金）

専門科目の集中講義

初回オリエンテーションまでに日程表を送付します。

5. 最大受講者数の緩和について

クラス分け作業の結果、希望の重複により20名で区切れない状況が生じる可能性があります。その場合、実験などの受講制限が必要な科目を除き、受講者数を最大22～23名（20名の1割増し）程度まで認めてくださるようお願いします。

（支障がある場合は事前にお知らせ願います。）

6. 時間割の柔軟な対応について

「基礎ゼミ」の授業時間は、月曜日の3～5講時及び木曜日の5講時に割り当てられています。

このうち5講時の授業については、次のような問題があります。

- ・月曜日5講時に授業を行う場合

学生にとって3，4講時が空き時間になってしまう。

- ・木曜日5講時に川内北キャンパス以外で授業を行う場合

4講時まで川内北キャンパスで授業を受講している学生は、キャンパスの移動に時間がかかる。

このことから、受講学生が決定した後に、学生の実状に応じて、定時刻の授業実施にこだわらない等、柔軟な対応をお願いします。

7. 基礎ゼミの実施に係る経費について

資料4『全学教育科目「基礎ゼミ」実施に係る経費の取り扱いについて』を参照してください。

申請手続き等については、3月中旬に担当教員あてにメールにてご案内しますので、手続きの詳細についてはそちらをご参照願います。

なお、経費は事前に申請の上、審査を受けていただく必要があります。実際の申請は資料送付（3月末）後に行っていただくこととなりますが、基礎ゼミの計画を立てる際に、実施場所・移動手段など疑問が生じた場合は、事前に全学教育実施係までお問い合わせ願います。

4月にフィールドワークを実施する予定の場合は、3月中旬までにご相談ください。

【基礎ゼミ実施経費申請の原則事項】

- ・ フィールドワーク実施開始日の **3週間前**までに申請。（4月～5月実施の場合は最低でも2週間前までに申請）
- ・ 基礎ゼミ実施経費として申請可能なものは、主にフィールドワーク交通費のみ。
- ・ 申請可能なフィールドワークは**1授業に付き1回のみ**。
- ・ 授業期間中に実施する場合には、他の授業が行われる平日を避けて計画すること。
- ・ JR等の利用は片道**200km**以内の普通乗車券のみ（特急券は不可）。
- ・ 借上げバスの利用はJR等の利用が不可能な場合で、片道**100km**以内かつ参加者数（教員含む）が**15名以上**の場合に可能。
- ・ フィールドワークで博物館等を利用した場合、その入場料を支出する。
- ・ 宿泊費・食費等は学生の負担となる（教員の宿泊費等は旅費規程により支出）。
- ・ 授業で使用する**実験器具等の物品や、材料費等**は支出できない。

【基礎ゼミ実施経費支出の注意事項】

経費支出は請求書払いを原則としますが、JRや路線バス等で請求書払いが困難な場合は立替払いとなります。実状は、「JR等→立替払い、借上げバス→請求書払い」となることがほとんどです。どういう場合であっても、学生に立替えさせることは禁止しています。立替払いの場合、教員の旅費は別途支給されますので、学生分のみ請求し、後日、立替えた全員分の金額が記載された領収書またはレシートを提出することとなります。クレジットカードで利用した場合、その時の利用明細が必要となります。領収書が発行できない場合や、発行できるかが不明な場合は、事前に全学教育実施係までお問い合わせ願います。

なお、経費削減のため、前売券等を購入可能な場合には、ご利用くださいますようお願いいたします。

8. TAについて

基礎ゼミを含む全学教育科目のTA配置基準等が令和元年度より変更になりました。配置基準等の詳細及びTA採用の具体的な手続きについては、1月上旬頃にお知らせします。

9. 基礎ゼミシラバスの作成について

シラバスの原稿は、Web から入力していただくことになります。原稿作成の依頼は、11 月中旬にメールで送付します。(複数の教員で授業を担当される場合は代表教員にのみ送付します。) 締切は 12 月中旬となります。なお、平成 31 (令和元) 年度のシラバスは、東北大学全学教育ホームページから閲覧することができますのでご参照願います。

【URL : http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html】

10. 基礎ゼミ成果発表会

9 月下旬に、「基礎ゼミ」で学んだ成果を学生が発表する会を計画しております。

11. 学生による授業評価アンケートについて

授業評価アンケートの用紙を、5 月上旬に各担当教員に送付します(複数教員でご担当される場合は、代表者のみにお送りしますので、アンケート用紙を、授業評価を実施する教員へお渡しください)。

授業評価アンケートは、授業の最終日等、ご都合のよい日に実施してください。

「基礎ゼミ」問い合わせ先

【全般・クラス分け】

教育・学生支援部教務課 全学教育企画係

TEL : 7 9 5 - 7 5 7 8 FAX : 7 9 5 - 7 5 5 5

E-Mail : kyom-k@grp.tohoku.ac.jp 学内便 : 川 B - 7

【基礎ゼミ経費・TA・教室等】

教育・学生支援部教務課 全学教育実施係

TEL : 7 9 5 - 7 5 5 8 FAX : 7 9 5 - 7 5 5 5

E-Mail : kyom-j@grp.tohoku.ac.jp 学内便 : 川 B - 7

授業担当の先生方へ

基礎ゼミについて

- (1)「基礎ゼミ」は大学教育への導入・イニシエーションを開設趣旨としており、1 クラス 20 人以下の文系理系の混合した新入生を対象にした授業です。課題は専門的なものではなく、学部横断的でかつ新入生が興味を持てるようなものを設定してください。
- (2)「基礎ゼミ」は、教員と学生及び学生相互間でフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションを作ること、を1つの目標にしておりますので、担当の先生方の研究室でのゼミ、体験学習や実験、野外での調査や観察などをできるだけ取り入れることのできるような課題を設定していただければと思います。
- (3)一つの問題を種々の角度から横断的に考える態度を身につけさせることが「基礎ゼミ」の目標の一つとされています。その意味で一つの課題を複数の教員（2～3名）が担当することも可能です。
- (4)「基礎ゼミ」の単位は2単位です。授業の形態は、演習の他に、学生との話し合いによっては集中型、合宿型のものもあり得ると思われます。合宿の場合、一日6回分（12時間）相当と考え、1課題につき約2日半となります。学生が受講できるのは一人1課題です。

【平成 31(2019)年度転換少人数科目・基礎ゼミ履修の手引（シラバス）より抜粋】

新入生のみなさんがこれから東北大学で履修することになる多くの授業のうち、まず初めに履修する「基礎ゼミ」は、高校までと異なる大学での学び方を体験してもらう特別な意味を持っています。

みなさんの多くは、大学受験を意識して答えのはっきりしているものを正確に記憶し高速で思い出すという、共通尺度で比較可能な知識の多さと知的操作の速さに関わる訓練を中心とした勉強をしてきたと思います。これにより重要な基礎学力が醸成されたわけです。

これからの東北大学での学びは、未知のものへの挑戦を主とします。まず高校との違いに気づいてほしいと思います。正解を覚える勉強から自ら考える探究・研究へ、順応性から能動性へ、画一性から多様性への転換が必要なのです。

「基礎ゼミ」は、教員が話し学生は聴くだけといった知識の伝達を主とする授業ではありません。学生のみなさんが積極的に授業に参加することが求められます。教員からの一方通行の授業ではないのです。教員の出すテーマに基づき、自分で工夫して調べ、教室で発表し、みんなで討論します。授業形態も様々で、演習、実験、実習、フィールドワークを含む授業も多くあり、合宿で行うクラスもあります。授業が終わったあとで、学んだ成果を公開発表する会にも参加できます。「基礎ゼミ」とは、大学で学ぶとはどういうことか？研究とは何か？大学とは何か？について教員と学生が共に考える場でもあるのです。

この授業科目は、東北大学の各学部の教員だけではなく、総合大学である本学の特色を生かして全ての研究所、機構、センター、大学病院の教員が分担します。「基礎ゼミ」の授業テーマは、専門的なものだけではなく、入門的又は普遍的・学部横断的なものになっています。したがって、理系か文系か入学した学部にこだわらず、166の授業テーマの中から、知的興味をかき立てられるクラスを選んでください。いずれか一つのクラスに所属することになります。

「基礎ゼミ」のクラスで、教員やいろいろな学部の学生と真剣に学び研究し、またコミュニケーションを楽しんでください。そして、他分野の人達と協働して我々人類の課題に取り組む積極的姿勢を培ってくれることを期待します。

「基礎ゼミ」関連の主なスケジュール

令和元年 11 月中旬	<u>基礎ゼミの手引（シラバス）作成依頼</u>
令和元年 12 月中旬	<u>基礎ゼミの手引（シラバス）作成期限</u>
令和 2 年 1 月上旬	T A 配置希望照会
令和 2 年 1 月末	T A 配置希望調査書提出期限
令和 2 年 3 月上旬	T A 配置認定結果通知・T A 採用予定者照会
令和 2 年 3 月中旬	T A 採用予定者提出期限
令和 2 年 3 月中旬	基礎ゼミ実施経費申請手続等の案内
令和 2 年 4 月 3 日(金)午前	入学式
4 月 3 日(金)午後 ～4 月 7 日(火)	新入生オリエンテーション
4 月 14 日(火)	学生にクラス分け発表（掲示）
4 月 15 日(水) 午後	<u>受講者名簿ダウンロード（学務情報システム）</u>
4 月 16 日(木)	<u>基礎ゼミ初回授業（木曜）</u>
4 月 20 日(月)	<u>基礎ゼミ初回授業（月曜）</u>
5 月上旬	授業評価アンケート用紙送付
授業最終日等	授業評価アンケート実施
8 月 21 日(金)	<u>成績報告期限</u>

「展開ゼミ」実施に当たっての留意事項

1. 開講の経緯

「学びの転換」を掲げる全学教育科目「基礎ゼミ」は、初年次学生に「大学での学び」を体験させ、学生の主体的な学習態度を育む授業科目として平成 14 年度の導入以来、大きな教育的成果を上げてきました。

毎年実施される「学生による授業評価」アンケートでの満足度等の評価はきわめて高く、2 年次学生との「学生との懇談会」では、1 年次後期にも基礎ゼミを開講し、受講の機会を増やしてほしいとの要望が継続的に出されてきました。他方、基礎ゼミ担当教員対象のアンケートにおいても、学生の積極的な学習態度や主体性を向上させるために「基礎ゼミ」に続く展開的、学際的なゼミを開講することを望む意見・要望が出されていました。

これらを踏まえ、1 セメスターに開講してきた全学教育科目「基礎ゼミ」に加えて、平成 25 年度から新たに「展開ゼミ」を開講しています。

2. 展開ゼミについて

「展開ゼミ」は、入学後半年間の「大学での学び」の経験をもとに、「基礎ゼミ」で育まれた主体的な学習姿勢をさらに高めようとするものであり、演習・実習・実験・フィールドワーク等のアクティブ・ラーニングを取り入れた 20 名程度の少人数教育の授業形態を言います。いわゆる教育手法（スタイル）のことを指しており、教育内容については授業担当者が決定することとしています。様々な科目類・科目群に渡って広く開講しています。

3. 受講者の決定、初回の授業について

他の全学教育科目と同様に、履修登録期間後に受講者が決定します。また、初回の授業も「令和 2 年度全学教育科目実施学年暦」に従って開始します。

4. 受講学生の上限について

目安は 20 名程度としていますが、授業内容に応じて授業担当教員が上限を決定し、

履修学生の決定についても担当教員の判断で行ってください。

5. TA について

展開ゼミを含む全学教育科目の TA 配置基準等が令和元年度より変更になりました。
配置基準等の詳細及び TA 採用の具体的な手続きについては、1 月上旬頃にお知らせします。

6. 展開ゼミシラバスの作成について

シラバスの原稿は、Web から入力していただくことになります。原稿作成の依頼は、1 月上旬にメールで送付します。(複数の教員で授業を担当される場合は代表教員にのみ送付します。) 締切は 1 月下旬となります。なお、平成 31 (令和元) 年度のシラバスは、東北大学全学教育ホームページから閲覧することができますのでご参照願います。

【URL : http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html】

7. 学生による授業評価アンケートについて

「学生による授業評価」は、授業の最終日等を実施してください。後日、文書又は E-Mail で、実施日時等を照会します。

8. その他

「展開ゼミ」はカレントトピックス科目群の枠組みに限定されず、教育内容によって、基幹科目類や人文科学、社会科学群としても開講することができます。また、2 セメスターに限定されず、3 セメスター以降の開講も可能です。(国際共修ゼミを「展開ゼミ」として開講する場合には、1 セメスターに開講することもできます。)

展開ゼミの実施にかかる予算措置はないのですが、やむを得ない事情等がある場合は下記問い合わせ先にご相談ください。

「展開ゼミ」問い合わせ先

教育・学生支援部教務課 全学教育企画係

TEL : 7 9 5 - 7 5 7 8 FAX : 7 9 5 - 7 5 5 5

E-Mail : kyom-k@grp.tohoku.ac.jp 学内便 : 川 B - 7

全学教育科目「基礎ゼミ」実施に係る経費の取り扱いについて

平成 17 年 12 月 26 日 学務審議会

平成 19 年 2 月 5 日 学務審議会一部改正

平成 24 年 12 月 3 日 学務審議会一部改正

平成 26 年 7 月 7 日 学務審議会一部改正

全学教育科目「基礎ゼミ」実施経費として、教育基盤経費の予算の範囲において、以下のとおり取扱うものとする。

1 フィールドワークに要する費用等

- (1) 受講学生が JR 線等を使用して移動する必要がある場合は、審査の上、1 授業につき 1 往復の普通乗車券購入費を支出する。この支出の条件は、原則として移動距離は片道 200Km までの、受講者が全員参加する場合とし、目的地まで複数の路線がある場合は最も経済的な経路とする。
なお、JR 線等の普通乗車券の料金と同程度の料金である場合には、定期運行の路線バスとすることができる。
- (2) 受講学生がマイクロバス等を使用して移動する必要がある場合は、1 授業につき 1 往復のマイクロバス等借上費用(運転手付)を支出する。この支出の条件は、原則として移動距離が片道 100Km までの JR 線等の利用が不可能な場合であり、かつ、引率教員を含めた参加者数が 15 名以上であることとする。
- (3) 上記(1)及び(2)以外の特急料金等(急行、座席指定、グリーン料金等)、施設使用経費、宿泊費等の費用は、受講学生の負担とする。
- (4) フィールドワークで博物館等を利用した場合、その入場料を支出する。
- (5) 引率教員は、教育基盤経費により、本学旅費規程に基づく出張の手続を行うものとする。
- (6) フィールドワーク等に参加する学生は、日本国際教育支援協会の学生教育研究災害傷害保険に加入していなければならない。
- (7) ティーチング・アシスタントがフィールドワークに参加する場合は、受講学生の取り扱いに準ずる。
- (8) 上記(1)または(2)の距離を超えて実施する必要がある場合は、あらかじめその理由を教務課へ提出するものとし、基礎ゼミ委員会において協議のうえ、その可否を決定する。

2 申請手続等

- (1) 交通費を申請する教員は、授業開始前に、フィールドワーク等を実施する理由・目的地・実施期日・参加予定人数を記載した申請書に、詳細日程予定表及び参加者名簿を添えて提出する。また、交通費の配分を受けた教員は、フィールドワーク等の実施後に報告書(A4 判 1 枚程度)を提出する。
- (2) 申請書及び報告書は、基礎ゼミ委員会委員長が受理する。なお、事務処理は、教務課が担当する。

2. 講 演

「配慮を要する学生の理解と対応」

学生相談・特別支援センター講師	中岡 千幸
学生相談・特別支援センター特任講師	榊原佐和子



令和元年度基礎ゼミ・展開ゼミFD
配慮を要する学生の理解と対応

高度教養教育・学生支援機構
臨床教育開発室
中岡千幸・榊原佐和子

1

本日の内容



- 1 学生相談内容の近年の傾向
- 2 障害を有して入学する学生
- 3 学生対応で留意したいこと
- 4 基礎ゼミ・展開ゼミの意義
ー学生支援の立場からー

2

University Counseling Center, Tohoku University

1 学生相談内容の近年の傾向



- ① 学生の**多様化**。学生相談の内容も多様化、複雑化
- ② **対人関係の相談**の増加
- ③ **発達障害**やその傾向の強い学生の相談の増加

多様な新入学生たち



- さまざまな個性、経歴、民族・宗教的背景の学生
 - 学力や学習意欲、高校までの学習経験等
 - 性別、年齢、国籍、人種、障害の有無等
 - 虐待、いじめられ経験、長期の不登校体験等
- 精神障害や発達障害等の**障害のある**学生
 - 精神障害、発達障害、聴覚障害、難病等
- 3.11をはじめ、様々な**被災体験をもつ**学生

多様な学生が入学しています

近年増加している相談



- 対人関係の相談
- なかでも **学生間での関係のこじれ・トラブル**
（例）暴言・威嚇・脅しのメール⇒ストーカー的行為や事件に発展するものも
- 思春期・青年期（友人作りの練習期）においての「友を選ぶこと」の重要性
- 「身近な関係」での **SNS** や **ライン**。適切なメッセージを送り、受け取る難しさ。

近年増加している相談



- **発達障害** 学生の相談
- 学業・研究、対人関係、進路の躓きを契機に
- 発達障害学生本人から、また **その関係者**（家族、教職員、サークルや研究室の同級生・先輩・後輩、恋人） **からの相談** が近年急増。

2 障害を有して入学する学生



発達障害とは？

- 自閉症スペクトラム障害（ASD）
- 注意欠如多動性障害（ADHD）
- 学習障害
 - ・ グループディスカッションが難しい
 - ・ レポートが出せない
 - ・ 教員の話聞きながら、板書をノートに写すことができない など

→ 落ち込み、不安が強くなることもある

University Counseling Center, Tohoku University

障害のある/あると思われる学生



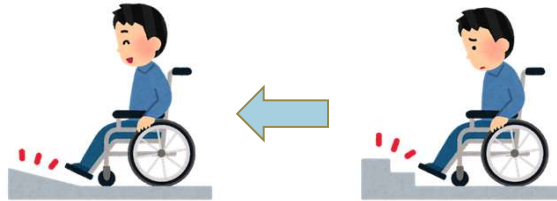
- さまざまな障害
 - ・ 視覚障害
 - ・ 聴覚障害
 - ・ 肢体不自由
 - ・ 内部障害
 - ・ 精神障害
 - ・ 発達障害 など
- 東北大学にも多くの障害のある（あると思われる）学生が学んでいる。
- 一見、障害があるとわからないことも多い。

University Counseling Center, Tohoku University

「合理的配慮」の提供



- 「社会的障壁」とは、「障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会生活における事物、制度、慣行、観念その他一切のもの」を指します。



- 大学においては、教育・研究等を行う際のキャンパス内/間の移動、施設利用、その他の大学が行うさまざまなプログラムへの参加等、障害のある者にとって障壁となるような事物、制度、慣行、観念等の社会的障壁の除去＝「合理的配慮」が大学側に求められている

University Counseling Center, Tohoku University

「障害のある学生の支援に関するガイドブック」

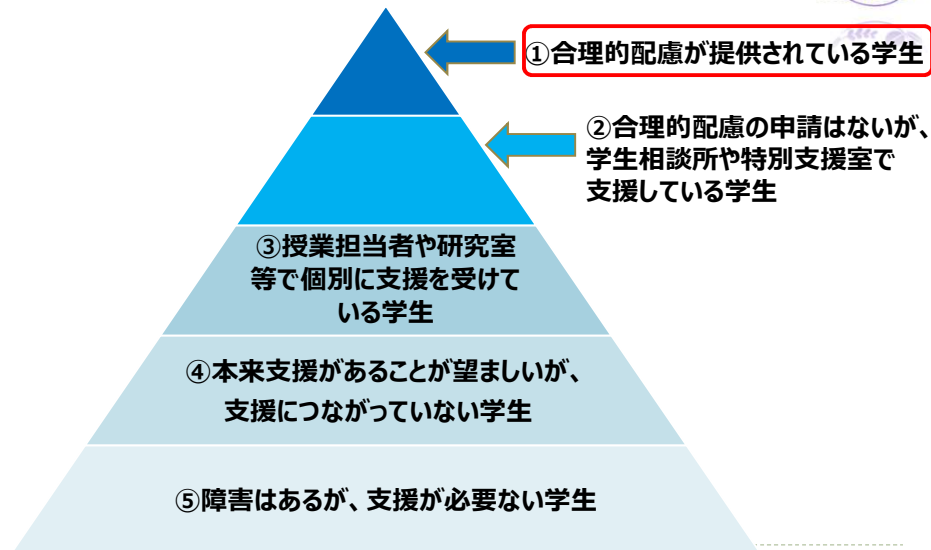


<http://www.ccds.ihe.tohoku.ac.jp/wp-content/uploads/2019/03/a8b24a71af1f8bf8c00b56b680989d13.pdf>



University Counseling Center, Tohoku University

障害のある学生の階層概念図



University Counseling Center, Tohoku University

担当クラスに障害学生がいる可能性がある

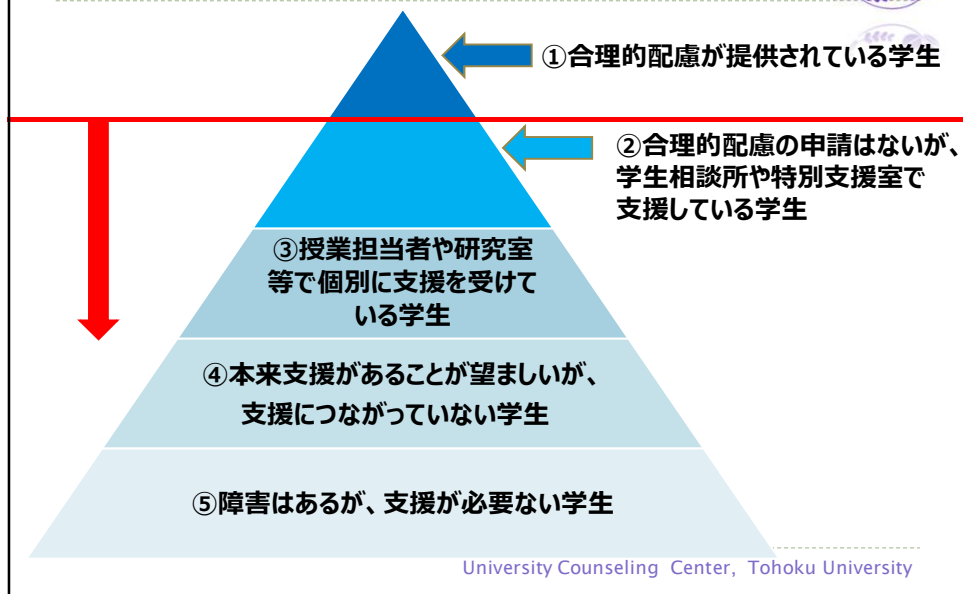


- 合理的配慮の提供を求められることがあります。
学生の希望する配慮を担当授業で提供することが難しい場合は、別の方法で提供できるものはないか検討をお願いいたします。

困ったことがあれば、学生の所属部署や特別支援室までご連絡ください。

University Counseling Center, Tohoku University

障害のある学生の階層概念図



担当クラスに障害学生がいる可能性がある



- 合理的配慮の提供は求められていないが、対応に困る学生がいる。

困ったことがあれば、学生の所属部署や特別支援室までご連絡ください。

発達障害の学生への対応の例



- 曖昧な表現、婉曲的な表現を避け、指示・説明は具体的、明示的に行う
- 1回の指示を短く、1つのことを伝える
- ビジュアル資料を多く利用する
- 見通しが持てるよう、予定の変更は前もって伝える
- 作業・提出物の締め切り前に一声かける

本人が困っている様子がみられたら声をかける
周りが困っている様子が見られたら様子を聞く
→そのうえで、「3-②気になる学生への対応」

15

University Counseling Center, Tohoku University

3 学生対応で留意したいこと



- 基礎ゼミ・展開ゼミ運営者として留意したいこと
- ① 人間関係のトラブルの防止と対応
 - ストーカー行為、事件化する前に
- ② 気になる学生への対応
 - 発達障害の学生
 - 精神科的症状を呈する学生
- ③ 事故、ハラスメントの防止と対応
 - 事故
 - ハラスメント

16

University Counseling Center, Tohoku University

人間関係のトラブルの防止と対応



- 模擬事例A：

「基礎ゼミで、グループを組んだ男子学生から夜中に頻回のメール、電話、脅す内容に。怖くて授業に出られないばかりか、キャンパスに足を踏み入れられなくなり、試験が近づいてきた。他の科目も出席できなくなり、心療内科へいく事態に。」

- 模擬事例B：

「基礎ゼミのグループの発表の準備を学生のアパートで行うことに。一人が休み、男子学生Aと二人きりになったが、そこで乱暴され.....」

人間関係のトラブルの防止と対応



- 対応

加害学生への対応

被害学生への対応



授業担当教員として、学務審議会委員と対応を協議→
学務審議会委員長・（外国語等の）他の委員会とも協議

- 防止

- 不必要な個人情報共有させない
- グループ学習の人数（二人きり×）、場所（アパート×、学内や公共的空間○など）について**予め注意喚起**しておく

気になる学生への対応



- 発達障害かな？何か精神的な問題を抱えているのかな？という学生、自傷行為、緘黙など、気になる行動を示す学生
- 対応の観点：
 - 見守るか つなぐか
 - 見守るとしたら、どのように見守るか（どの範囲の関係者まで情報共有するか）
 - つなぐとしたら、学生相談・特別支援センターや保健管理センターへどのようにつなぐか
 - 学部や関係する他の機関との連携はどうするか

事故、ハラスメントの防止と対応



- 事故
 - フィールドワークや施設等見学に際し、原付で移動中に事故発生
- 対応：学務審議会への連絡、その他
- 防止：公的交通機関の利用を指示する等

事故、ハラスメントの防止と対応



➤ ハラスメント

- 合宿におけるセクハラ
- 学生間のセクハラ行為や飲酒の強要を見逃す
- 学生との私的な付き合い：セメスター終了後も、SNSなどでのやりとり（私的交流）を教員側が続けようとするなど。

➤ 対応

- 学生相談所やハラスメント相談窓口の活用。全学教育の各委員会や、全学教育教務、各部局の学生相談・特別支援連絡会議委員との連携、協議が必要な事態も
- 防止：運営者としての役割行動をとる。授業担当者としての関係と私的関係を峻別する。

4 基礎ゼミ・展開ゼミの意義 —学生支援の立場から—



- 「学問・研究の旅」に誘い、促すのと同時に、身近にあるゼミの人間関係（みなさまや同じゼミの学生）と関わる中で、「自分づくりの旅」に誘い、促す意義を持つのではないか。（人間関係の中で人は育つ）
- 安全な「自分づくりの旅」などないかもしれないが、安全配慮をした上で、学生の特徴に程よく合わせた皆さまの関わりは、学生の「自分づくりの旅」を程よくサポートするのではないだろうか。（どれだけ良質な人間関係がもてるか）

どうぞ遠慮なくご連絡ください



- 学生相談・特別支援センター

- 学生相談所 電話：795 - 7833

gakuso@ihe.tohoku.ac.jp

- 特別支援室 電話：795-7696

t-sien@ihe.tohoku.ac.jp



- ハラスメント全学学生相談窓口

- 電話：795 - 7812

- 電子メール：gakuso@ihe.tohoku.ac.jp

3. 基礎ゼミ実践事例の報告

- ① 「科学の力で世の中をモデル化しよう」
～実験・実習型ゼミ実践事例

サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター助教
田中 香津生

- ② 「フィールド社会技術学について
～フィールドワーク入門～」
～フィールドワーク型ゼミ実践事例

農学研究科准教授 米澤 千夏

- ③ 「教育のオルタナティブ(今とは違うあり方)を構想する」
～演習型ゼミ実践事例

教育学研究科准教授 後藤 武俊

「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ

科学の力で世の中をモデル化しよう

東北大学
サイクロ・RIセンター

かづお
田中香津生

自分の問題意識を現実世界につなげる

問題意識



仮説



モデル化



提言、検証

授業内アクティビティ

川内の道の長さを測る

マーブルチョコは色ごとに数が違うか

定量的、考えられる

問題意識



仮説



モデル化



提言、検証

授業内アクティビティ

川内の道の長さを測る

マーブルチョコは色ごとに数が違うか

定量的、考えられる

問題意識



仮説



モデル化



提言、検証

現実世界に繋がる

川内食堂の渋滞改善

信号無視と道幅の関係

感情と体感時間の関係

海のプラスチックごみ回収方法提案

課題解決型グループ活動



問題意識



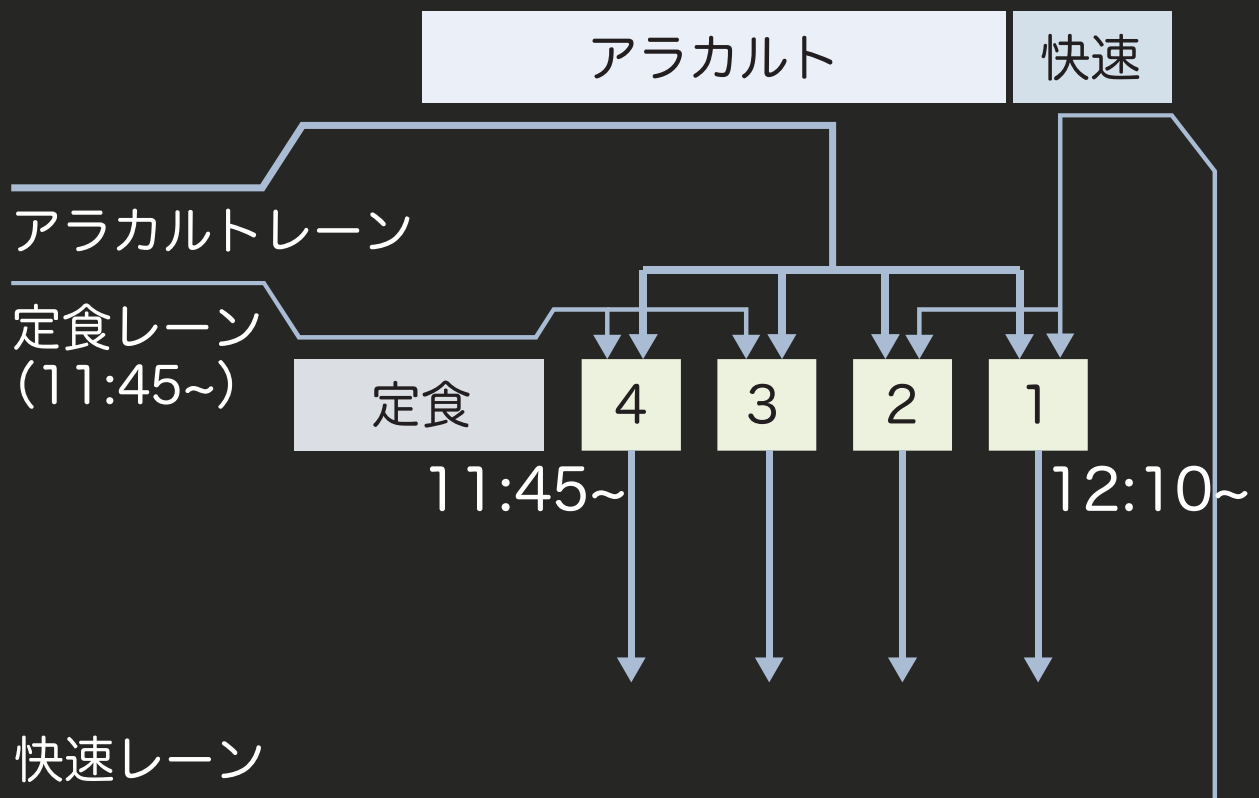
仮説



モデル化



提言、検証



問題意識



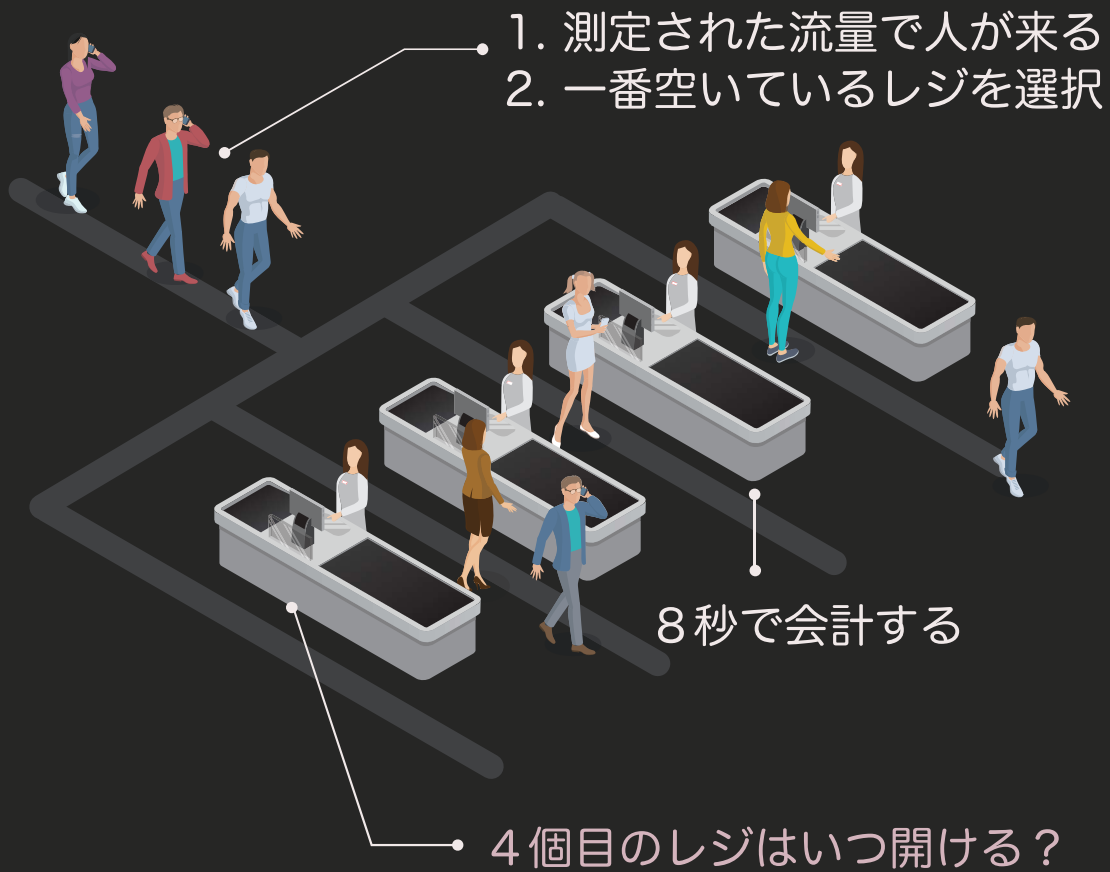
仮説



モデル化



提言、検証



問題意識



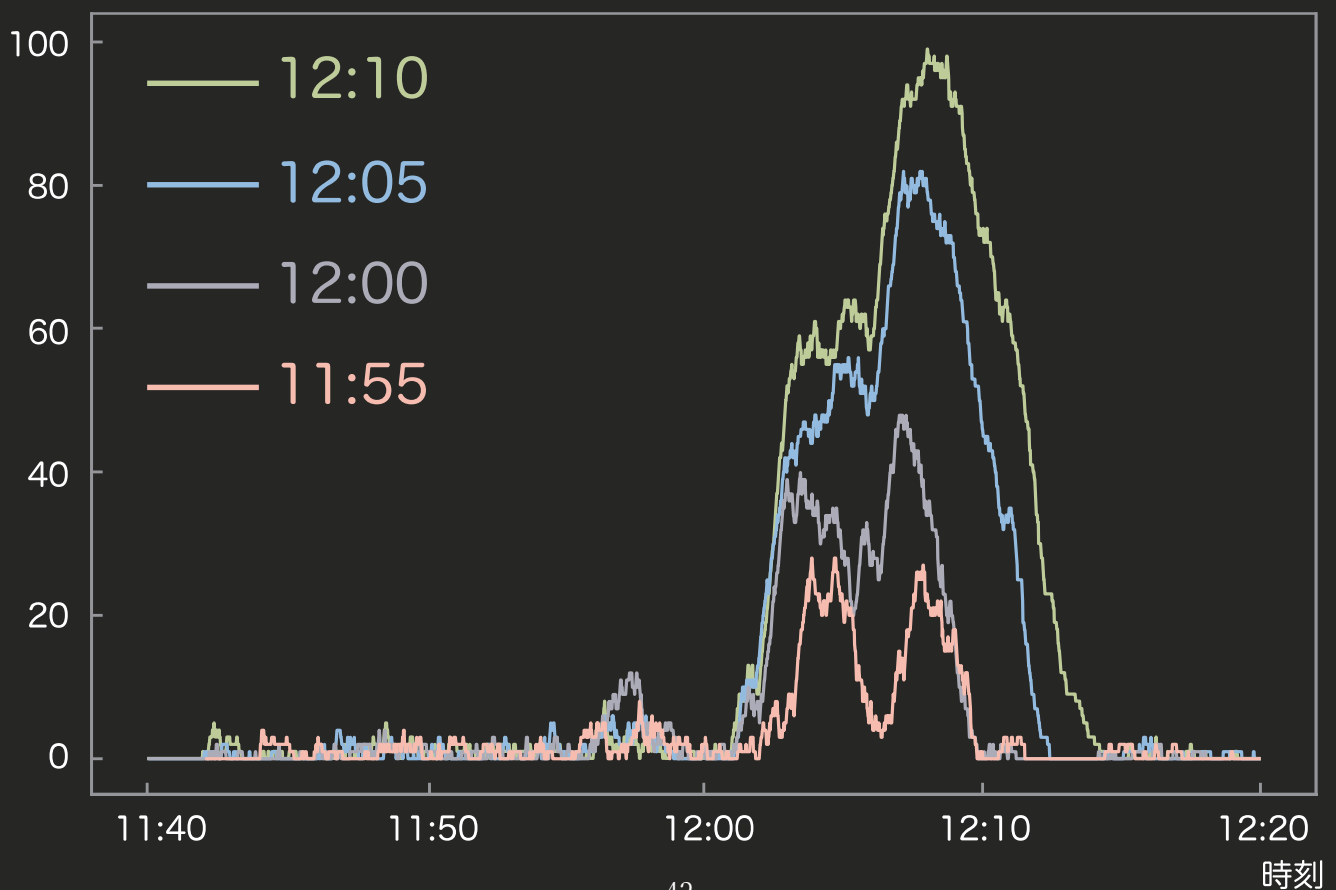
仮説



モデル化



提言、検証



問題意識



仮説



モデル化



提言、検証



問題意識



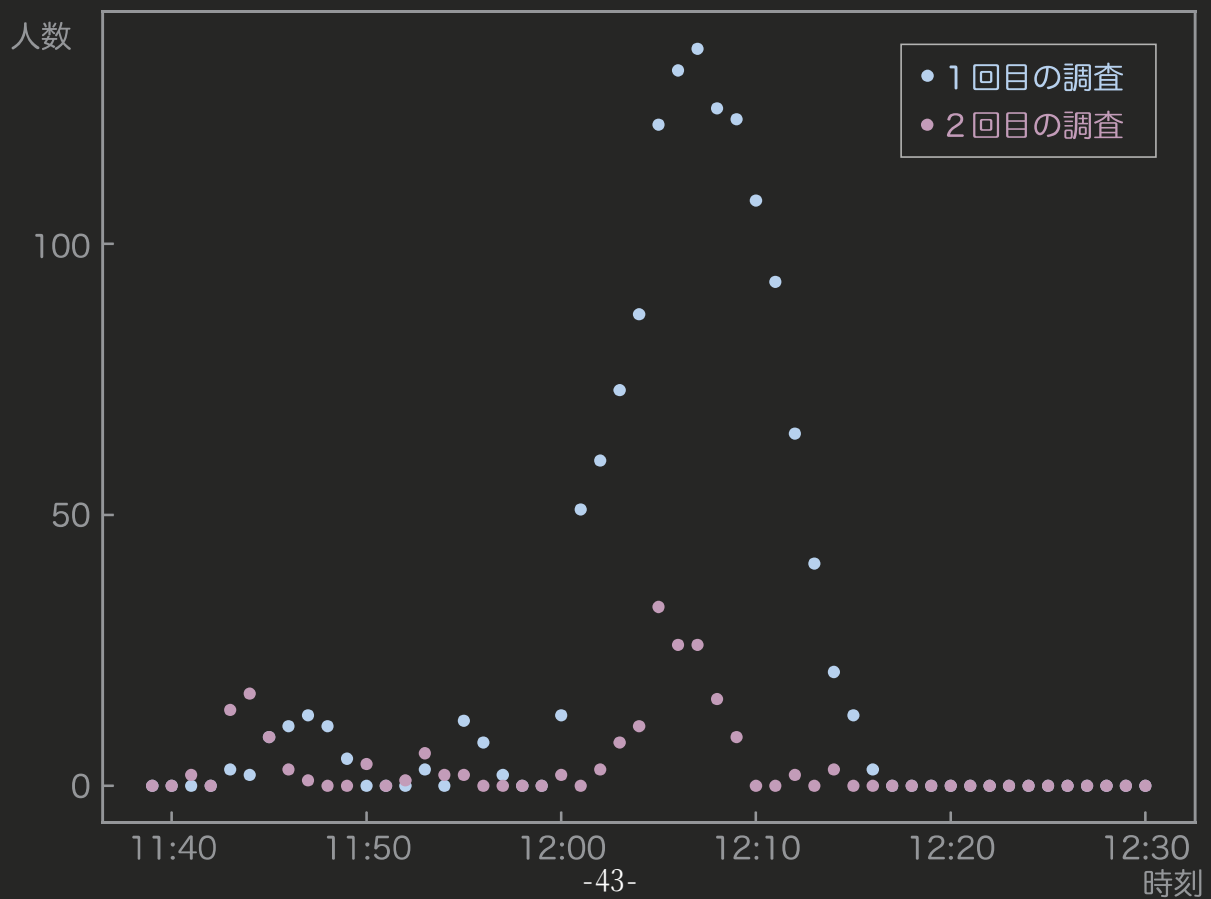
仮説



モデル化



提言、検証



経済産業省実証事業

徳島県小松島西高校食物科一斉給食



授業内アクティビティ

川内の道の長さを測る

マーブルチョコは色ごとに数が違うか

定量的、考えられる

問題意識



仮説



モデル化



提言、検証

現実世界に繋がる

川内食堂の渋滞改善

信号無視と道幅の関係

感情と体感時間の関係

海のプラスチックごみ回収方法提案

課題解決型グループ活動

チャンネル

general

random

グループ1

グループ2

グループ3

グループ4

グループ5

グループ6

グループ7

チャンネルを追加する

ダイレクトメッセージ

Slackbot

田中香津生 (自分)

内野明依 12:09

グラフって12センチなくしたやつとなくさないやつとどちらも載せるの？
あと2回目の実験だけのデータのグラフって作れた？

横島大樹 17:31

いらなかなと思ったけど、載せたまま放ったらかしやった
あと、載せたやつは2回目だけのデータ
1回目と合わせるのなら作りますよ？

川崎 18:47

12センチのデータをなくすのは少し問題だと感じるので1枚目だけでいいと思う

内野明依 21:45

1回目のと合わせたグラフってどんなだったっけ？
3人で話して2回目だけのグラフにしたんだっけ？
私も12センチなくさない方がいいと思います👏

横島大樹 23:39

余分なグラフ消しときました
たぶん完成です！

slack: 授業外コミュニケーション

香津生 田中

18h43@hgms.jp

hiroo

collection View Go Debug Terminal Help

quarknet-simultaneous-measurement.py - usb-6001-control - Visual Studio Code

quarknet-simultaneous-measurement.py 6861-2018-10-all 6861.2018.1015.0

ZOOM: オンライン講義、メンタリング

基礎ゼミ「科学の力で世の中をモデル化しよう」
道幅と信号無視の関係について

グループ1: 宮田一希 早川陸堅 山田航太

1.序論

大学へ向かう路上で歩いていると信号を無視して横断歩道を渡っている人を見かけます。平成30年のデータでは宮城県で発生した歩行者事故による死傷者のうち道路横断中の事故はおよそ6割を占めるという。さらに歩行者死傷者の2割以上は歩行者に過失が認められた。これらのことが示す通り、信号無視には大きな危険が潜んでいる。

Kazuo Tanaka 2:17 7月25日

解決

・図1と図2について棒グラフは不適切（道幅は連続性のある数値なので）。散布図が適切

・仙台の地図および測定点を明示したらわかりやすい。（GoogleMap等で）

google docs: レポート、レビュ

進捗報告

スライド作成禁止
発表準備禁止
レポートのみで進捗報告

リアルタイムフィードバック
答えながら進捗報告

00:05:35.043

ストリップワライズ

月 火 水 木 金

モクビモクビモクビモクビモクビ

リルリルリルリルリルリル

5

15 w y w y w

20

25

30

4 考察

ASX

17

ASX

17

ASX

17

授業内アクティビティ

川内の道の長さを測る

マーブルチョコは色ごとに数が違うか

定量的、考えられる

問題意識



仮説



モデル化



提言、検証

現実世界に繋がる

川内食堂の渋滞改善

信号無視と道幅の関係

感情と体感時間の関係

海のプラスチックごみ回収方法提案

課題解決型グループ活動



全体の流れ

オリエンテーション（川内キャンパス）
予定の説明、GNSSのログの取り方
（青葉山新キャンパス）
フィールドワーク（青葉の森）
東北地理学会聴講（青葉山北キャンパス）
学会聴講まとめ（青葉山新キャンパス）
研究と社会についてのディスカッション
（青葉山新キャンパス）
フィールドワーク予定作成
（青葉山新キャンパス・コンピュータ演習室）
フィールドワーク（青葉の森）
フィールドワーク（金剛沢）
ログのまとめ
（青葉山新キャンパス・コンピュータ演習室）
フィールドワーク（青葉山城址）
フィールドワーク（川内周辺）
ディスカッション（青葉山新キャンパス）

学習の到達目標

大学で行っている研究が社会課題を解決するうえでどのように貢献できるかを学び、考えること、科学的思考に関する基本的な訓練を行う。

フィールドワークの基本的な技術を学ぶ。

転換教育であることを受講者も意識する

シラバス

作成時には受講者数、所属学部等不明

- ・ テーマ（フィールドワーク）が伝わるように気をつけた
- ・ 普遍的な内容を盛り込んだ

授業のテーマ設定

- 教員が実施して楽しいテーマ
- 新入生にもわかりやすいテーマ
- 新しい知識や技術が取得できるテーマ

授業の組み立て

- 臨機応変

オリエンテーション

- 自己紹介
- 基礎ゼミのねらい
- なぜこの基礎ゼミを選んだか？

▶「フィールド」がキーワード

- 時間割の確認
月曜5時間目、青葉山でよいか？

(川内・講義棟)

- シラバスの見直し

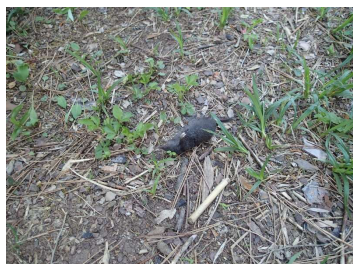
ログの取り方

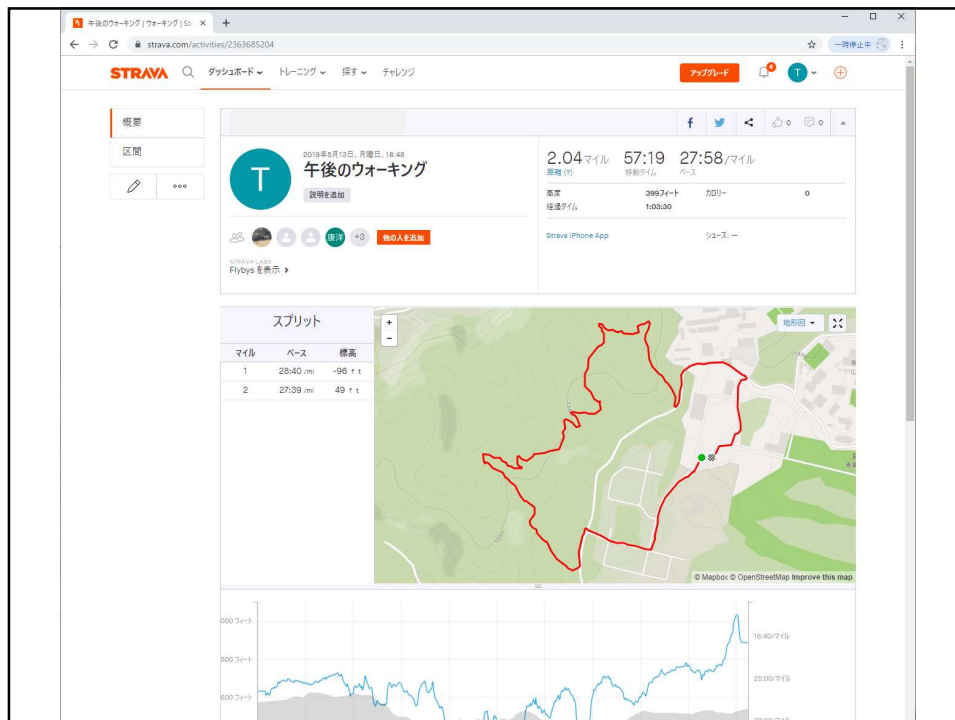
スマートフォンの活用



フィールドワーク

青葉の森





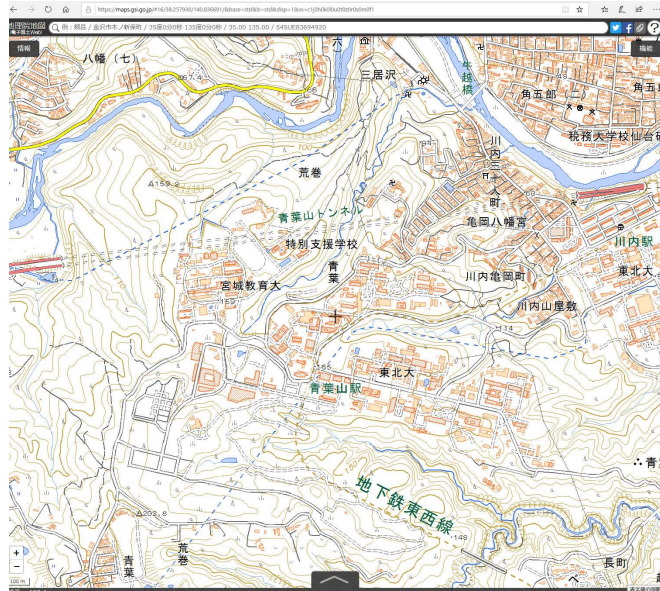
フィールドワーク予定作成

青葉の森散策の経験を参考に、
自らフィールド散策の計画を立てる

- ・ コンピュータ演習室で参考webサイトを閲覧
- ・ 二人一組
- ・ 月曜5時間目で完結する計画

➡ 地図にルートを書いて提出

フィールドワーク予定作成

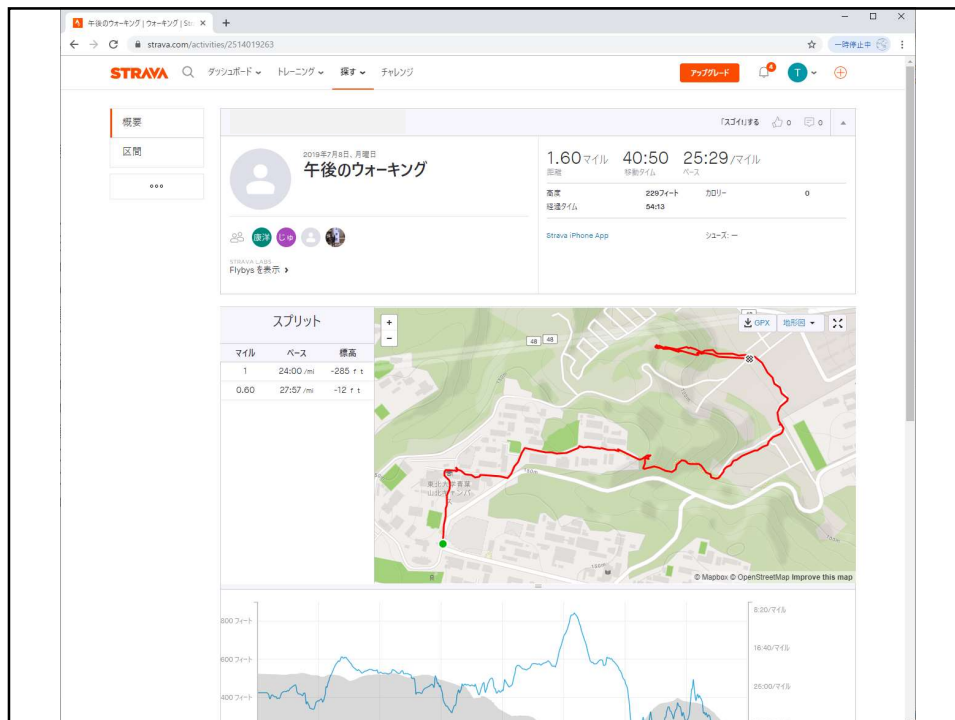


フィールドワーク（学生の計画の実行）

- コースは天候を考慮して当日決定、メールで連絡
- TAと一緒に歩く

大学生活の話など

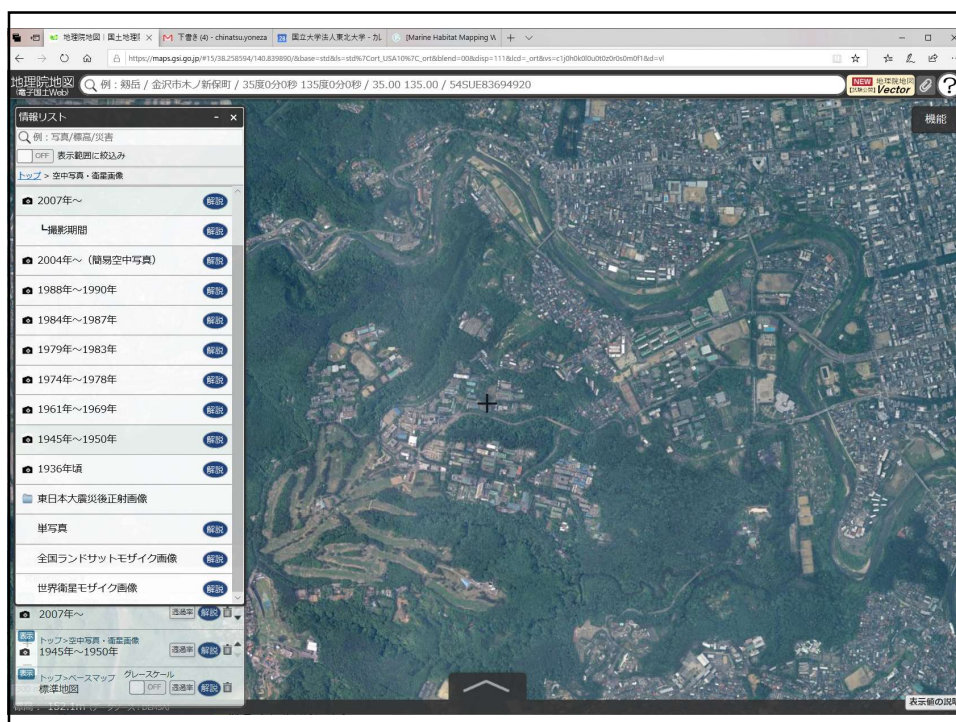
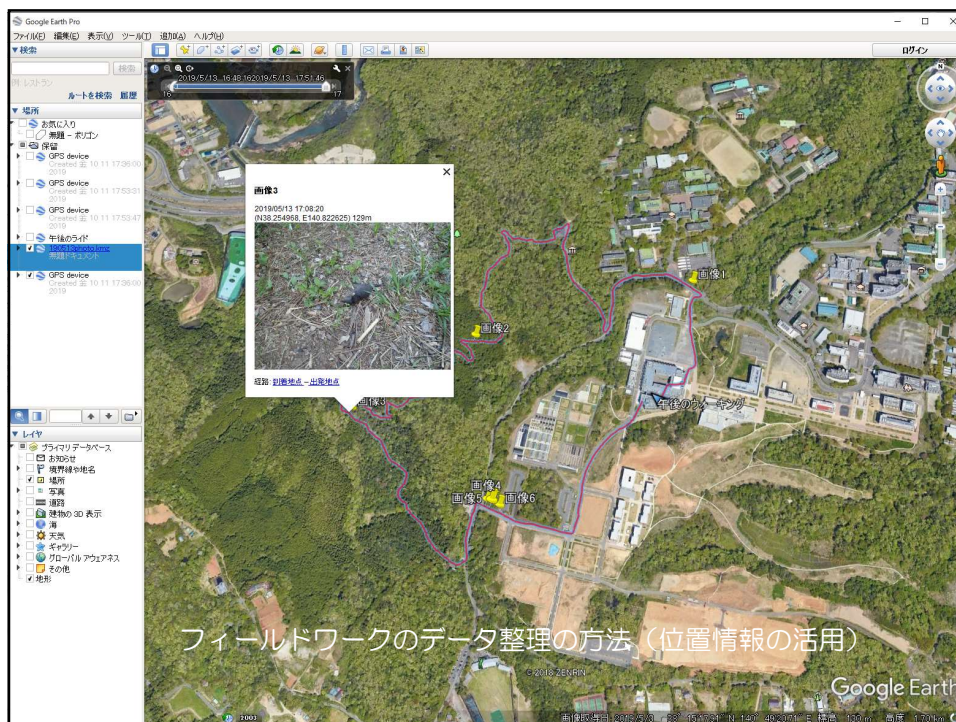
他大学出身の院生にも依頼



データ整理

- スマートフォンアプリによるログの取得
- 写真への位置情報の添付

➡ フィールドワークにおける位置情報の重要性

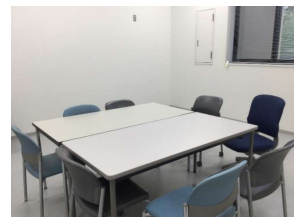


学会聴講

- 東北地理学会 （土日開催、理学部）
プログラムを事前に渡して、説明

主体的な学びのためへの工夫

- オリエンテーションで受講学生の興味や関心について一人ずつ話す機会を設けた
- 参加者の人数や興味を把握してから授業計画を修正した
- 野外観察の機会を多く取り入れた。天候を考慮しながら柔軟に日程を組んだ
- 野外観察の計画を受講者が立てた
- 学内で開催された関連学会の聴講を取り入れた
- 室内授業はディスカッションを行いやすい机配置になっている部屋を利用した
- コンピュータ室も活用した



実践事例の紹介③

演習型ゼミ実践事例

後藤武俊（教育学研究科）

1

0) 自己紹介

後藤武俊（教育学研究科教育学講座所属）

- 専門：教育行政学
- 研究内容：
 - ①困難を抱えた若者への学習機会としてのオルタナティブ教育の国際比較研究（基盤B、2018～2020）
 - ②現代アメリカの教育政策研究（企業財団による教育政策への関与）

2

1) 受講生数及び所属学部等

- ・基礎ゼミ題目：「教育のオルタナティブ（今とは違うあり方）を構想する」
- ・受講生数：21名
- ・所属学部：文学部6名、教育学部4名、法学部3名、経済学部2名、理学部3名、医学部1名、工学部2名

※今年で3年目。受講生数、所属学部ともに例年通り。

3

2) シラバスの概要

【授業の目的と概要】

- ・ 多くのう
- ・ 期に「教育」を<あたり
- ・ 例え「バ」をうぎすくすしえ

4

2) シラバスの概要

【授業の目的と概要】

- しかし、こうした<あたりまえ>が合わず、教育や学校から離脱する生徒が数多く存在しています（不登校や中途退学の問題）。また、現在の政治・経済・社会の急速な変化のなかで、この<あたりまえ>自体を大きく変える必要にも迫られています。
- そこで、本基礎ゼミでは、教育改革の新しい動きを踏まえながら、こうした学校や教育をめぐる<あたりまえ>を問い直し、自分なりのオルタナティブ（今とは異なるあり方）を構想することを目指します。
- 現代の学校・教育に関する沢山の文献を読み、考え、議論し、文章を書くことで、大学における学びへの基本的な構えを形成することも目的としています。

5

2) シラバスの概要

【学習の到達目標】

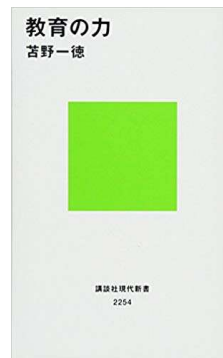
- 文献を批判的に読み、自分なりの「問い」を導く能力の獲得
- 社会問題や教育問題を多面的に捉え、思考する能力の獲得
- 自らテーマを立て、必要な文献を収集し、レポートを作成する習慣の形成
- グループでのディスカッションを通じて研究テーマを深化させる経験の獲得

6

2) シラバスの概要

【教科書】

- ① 荻谷剛彦 (2002) 『知的複眼思考法—誰でも持っている創造力のスイッチ』 講談社。
 ② 苫野一徳 (2014) 『教育の力』 講談社現代新書。



7

2) シラバスの概要

教科書①・②の
目次

【授業の内容・方法と進度予定】

- 第1回 オリエンテーション・グループづくり・アイスブレイク
- 第2回 知的複眼思考法とは何か／創造的読書で思考力を鍛える
- 第3回 考えるための作文技法
- 第4回 問いの立てかたと展開のしかた
- 第5回 複眼思考を身につける
- 第6回 図書館での文献検索実習
- 第7回 そもそも教育は何のため？／「学力」とは何か
- 第8回 学びの個別化／学びの協同化（協同的な学び）
- 第9回 学びのプロジェクト化（プロジェクト型の学び）／学力評価と入学試験
- 第10回 学校空間の再構築／教師の資質
- 第11回 教育からつくる社会／具体的ヴィジョンとプラン
- 第12回 ブックレビュー大会①（各自で選んだ文献の内容報告）
- 第13回 ブックレビュー大会②（各自で選んだ文献の内容報告）

8

3) シラバス作成方法（テーマ設定方法含む）

- 最低限、この授業を通じて新書の3冊くらいは読みこなしてほしい

⇒2冊は教科書で、1冊は自主的に。

- 教科書①は、方法論的内容。教育に関連するトピックを題材に「常識を疑う」方法の身につけ方をテーマとしているため、本授業にフィットしている。

- 教科書②は、近年の教育に関する幅広い話題を扱っており、高校生でも理解できる程度の平易な内容のものである（初年度は別の文献を使ったが、変更した）。

⇒基本的に、1～2章ずつ読んでくることを宿題にし、授業では各章の内容に即したグループワークを行うことにした（どんな内容にするかは、授業の2～3日前に検討）。

⇒第2～5回、第7～11回の内容決定！

9

3) シラバス作成方法（テーマ設定方法含む）

- 授業の終わり方をどうするか

①グループワーク中心だから、グループ毎に最終的に何かを作り上げることを課すか？

⇒多様な学部 of 学生がいるため、授業時間外で集まって作業することを必須とする課題は、ちょっと難しい&評価が難しい（よいものが出来るかどうかは仲間次第）。

⇒各自の作業で完結するもの = ブックレビュー大会をやることに（発表の機会／最終レポートの題材）

⇒第12、13回の内容決定！

②自分で興味ある本を選ぶのか？⇒今後のことも見据えて文献の探し方、図書館の使い方を知っておくのもよい。

⇒第6回の内容決定！（図書館の「オーダーメイド講習」を活用）

10

4) 実施授業の全体の流れ

第1回 オリエンテーション・グループづくり・アイスブレイク

- ・授業内容説明（10分）
- ・グループ作り：事前に学部・男女比を考慮したグループを提示。
5グループ編成。（10分）
- ・アイスブレイク

<自己紹介>①呼ばれたい名前、②所属・出身、③大学でやってみたいこと、④この基礎ゼミを選んだ理由、をA4用紙に書き出し、見せながら自己紹介。（15分）

<ブレスト>学校・教育に関して、疑問に感じてきたこと／感じていることを、皆で出し合おう（できるだけたくさん）。（30分）

「なぜ学校は〇〇なのか?」「なぜ先生は〇〇なのか?」「なぜ教室は〇〇なのか?」「なぜ日本の教育は〇〇なのか?」「なぜ学校と塾では〇〇が違うのか?」

①個人で紙に書き出す（5分）→②グループで共有（15分）→③グループ毎に全体発表（2分×5G）。

※面白い視点・ひねりの効いた視点は、学生とのコミュニケーションを通じて掘り下げる。

11

★学校・教育に関して、疑問に感じてきたこと・感じていることを皆で出しあおう。

○第1グループ

- ・受験はなぜ一回きりで決まるのか
- ・理系・文系はなぜ分かれているのか
- ・勉強以外で学校が果たすべき役割は何か

○第2グループ

- ・それぞれ学ぶペースは異なるのに、なぜ同じペースで学年が上がるのか
(なぜ飛び級はないのか/留年はマイナスイメージなのか)
- ・なぜ学校の伝統(校則)はあるのか
(厳しすぎないか)
- ・なぜ今のセンター試験を廃止するのか
(必要あるのか)

○第3グループ

- ・もっと英語に力を入れるべきではないか
- ・もっと生活に直結した内容を高校までに教えるべきではないか
- ・教員の負担は大き過ぎないか

○第4グループ

- ・観点別評価は不公平ではないか
- ・体罰はいつから絶対悪になったのか
- ・中高一貫に行くと中だるみしてしまうので、少し制度を変えるべきではないか

○第5グループ

- ・なぜ学校では個性が認めら

- ・ホワイトボードに書き出す作業をTAに任せる。
- ・教員は学生とのやりとりに専念。

4) 実施授業の全体の流れ

- 第2～5回の基本的な流れ

1) 本文の重要箇所の確認（解説）

（例：第2回）主要テーマは「批判的読書のコツ」①著者を簡単には信用しない／②著者のねらいをつかむ／③論理を丹念に追うこと、根拠を疑うこと／④著者の前提を探り出し、疑うこと（刈谷2002,p.110）

2) グループワーク

（例：第2回）①自分が本を読むときの工夫

②新聞記事（「新大学入学共通テストどう見る」）のコピーを配り、余白に様々な視点からのコメントを書かせる（「※無理やり批判しなくてよい。ここは大事、よく分からない、あいまいだ、などOK。こういう考え方は面白い、でもよい。」）

→新聞記事へのコメントをグループ内で共有。

→グループ毎に発表。

3) 宿題提示 & 授業への感想記入

※記入したコメントを踏まえて、記事を批判するレポートを課す（1500字程度）。

13

4) 実施授業の全体の流れ

- 第2～5回の基本的な流れ

1) 本文の重要箇所の確認（解説）

（例：第4回）主要テーマは「問いの立て方と展開の仕方」

→グループで、自分が面白いと思った部分を紹介しあう

→ポイントの確認・解説（教員）

2) グループワーク

（例：第4回）「問いのブレイクダウン」を実践してみよう！

①まず、教員が実践してみる。実践のポイントとして「フレームワーク」を説明。（5w1H／時間軸／国内・国外／主体（誰）／メリット・デメリット...etc）

②模造紙配布 & 活動開始。テーマは「学校は必要か？」

・グループで話し合い（20分）

→一人残して別のグループに移動し、話し合い（15分）

→戻ってきて、収穫した「問い」を追加し、さらに話し合い（10分）【ワールドカフェ方式】

3) 宿題提示 & 授業への感想記入

※宿題は次回の授業内のグループワークで読み合わせる（ここでもワールドカフェ実施）。

14



2019 基礎ゼミ（後藤担当）：宿題

学籍番号

① 菊谷（2002）の第4章を読んでください。

② 「初発の関心」から1つを選び、自分なりに「問いのブレイクダウン」をしてみてください（以下の余白に）。
次回、提出してもらいます。

氏名

17

2019 基礎ゼミ（後藤担当）：宿題

5W1H

① 菊谷（2002）の第4章を読んでください。

② 「初発の関心」から1つを選び、自分なりに「問いのブレイクダウン」をしてみてください（以下の余白に）。

学籍番号

氏名



18

氏名_____



氏名



4) 実施授業の全体の流れ

- ・ 第7～11回の基本的な流れ

1) 本文の重要箇所の確認（グループワーク①）

（例：第9回）テーマは「学びのプロジェクト化／学力評価と入学試験」

→ワークシートに、①面白かった点・なるほどと思った点、②疑問点・調べたこと、③全体的な感想、を書き留めてくる

→①～③について各自書いてきたことをグループで共有。

2) グループワーク②

（例：第9回）本文に関連する「問い」を設定して、話し合い→全体で共有

【問い】

①小・中・高の「総合的な学習の時間」で印象に残っている活動はありますか。良かった・勉強になった、と思うものを思い出してグループで共有しましょう。

②逆に、良くなかった・意味がなかったと思う活動があれば、どうすればよいものになるか、グループで考えてみましょう。

3) 宿題提示 & 授業への感想記入

※宿題は、次回のグループワークで読み合わせる。

21

2019 年度基礎ゼミ（後藤担当）20190701

プロジェクト型学習の提案

学籍番号 _____ 氏名 _____

（課題）

「あなたは、中学時代の恩師に頼まれて、母校で1週間（5日間）、プロジェクト型学習を企画・運営することになりました。どんな企画にするか、以下の点に留意して提案してください。」

①テーマ・ねらい（どんな経験をさせたいか、それを通じてどんな力を身につけさせたいか）

②プログラム内容（いつ、どこで、何を、どのように学ぶか）

※校外学習の機会なども入れ込むといいでしょう。予算などは無視して下さい。

③成果（最終的に、どのような成果に結実させるか） 例）壁新聞、レポート、発表会 etc

※本シートは ISTU にもアップしておきます。

22

プロジェクト型学習の提案

学籍番号_____

(課題)

「あなたは、中学時代の基幹に頼まれて、母校で1週間(5日間)、プロジェクト学習を企画・運営することになりました。どんな企画にするか、以下の点に留意して案を出してください。」

① テーマ・おもしろい(どんな経験させたいか、それを通してどんな力を身につけさせたいか)

② プログラム内容 (いつ、どこで、何を、どのように学ぶか)

③ 校外学習の機会などを入れてみたいというよう、手算などには無視して下さい。

※結果(最終的に、どのような成果に結実するか) 例) 新聞図、レポート、発表会など

※本シートはISTUにもアップしておきます

- ①子ども食堂での体験を通して、人が繋がる居場所づくりを学び、チームでよりよいメニューを考えてみる。
- ②グループの目標と目的を、1～4日は、最後に改めてよりかき出しの時間を持つ。
- 4日間の活動の様子を1週間程度で写真に収めてみる。(写真は基本写真形式で)
- 1日目：タスクの後半を、1人1人よりかき出しの時間。(先生がサポート)
- そのうち3人5分ずつは子どもに能力を伸ばし、食育で実践する。
- 市内の食育のスタッフの方から、子ども食堂について説明を受けるとともに食学。
- 2日目：食育2日目1日目の活動と、重要事項について話し合い、食学と食育。
- 1日目と食育のメニューのレビュー、必要材料などを調べる。また、食学に子どもに付いたと意見交換、食育の活動について。
- 3日目：スタッフの持ち回りで料理の出し付け、実際に調理を行う自分たちも試みる。食育が見つかるといふ解決策を模索し、また、明日に向けて食育の準備を行う。
- 4日目：子ども食堂について話し合う子供たちから、自分たちの用意した食事を提供する。また、子供たちと食育や遊びを通して交流する。
- ③
- 1日目：各県で、4日間のよりかき出しとまた発表準備をする。
- 写真やスライドに映し出しながら組ごとに前日に発表を行う。
- (活動内容、成果、感想など)
- 最後に、先生・スタッフから4日間の活動を見守った中で感じたことを発表する。

2019年度基礎ゼミ（後藤担当）20190701

プロジェクト型学習の提案

学籍番号

(原稿)

中学校校長

「あなたは、今時代の変化に順応して、毎月で1週間、1週間プロジェクト型学習を企画・運営することになりました。どんな企画にするか、以下の点に留意して整理してください。

①テーマ・ねらい (どんな経験させたいか、それを通じてどんな力を身に付けさせたいか)
②プログラム内容 (いつ、どこで、何を、どのように学ぶか)
※校外学習の機会なども入れ込むといいですよ。予算などは無視して下さい。

③成果 (最終的に、どのような成果に到達させるか) 壁・新聞画、レポート、発表会 etc

※本シートは ISTU にもアップしておきます。

- [illegible]

プロジェクト型学習の提案

7月8日(日) 櫻川

【課題】
「あなたは、中学時代の教師に頼まれて、毎日で1週間(5日間)、プロジェクト型学習を企画・運営することになりました。どんな企画にするか、以下の点に留意して提案してください。」
①テーマ・ねらい (どんな経験させたいか、それを通じてどんな力を身につけさせたいか)
②プログラム内容 (いつ、どこで、何を、どのように学ぶか)
※校外学習の機会などを入れ込むというより、予算などは無視してよい。
③成果(最終的に、どのような成果に結実できるか) ④ 型新聞、レポート、発表会 etc

プロジェクト型学習指導計画（案）

2. テーマ：「サリナが人生の使命を作り」（作題、地域の方々に設置しよう）
3. ねらい：音楽の多様性を学ぶ、作曲という形で表現活動を行うことで誰もが表現者であるということを実感させる。また、4人4人グループで活動を行うことで、親睦を深めるとともに、共に共有すること、共に目標を達成すること、共に責任を負うことと模範となることの意味らしさを学ぶ。目標達成にたいしては感謝の気持ちを表現することによって成果を決定する。
3. 授業の進行：時期・1期、場所・中学校
- ① PCで授業の導入と音楽の多様性を知る。調べた内容を班員に記入させる。（1日目 1時間）（時間の関係上ここでは①から③まで）
- ② 音楽教室の先生に付き、作曲の基本について学ぶ。（1日目 2時間）
- ③ グループに分かれ、作曲の準備をする。（スロウには2時間まで、打楽器は1時間スロウと楽器は1時間）たくさん曲のメロディ（リズム）を考えたいと欲求が高まる。12曲ほどは作成し、グループごとに発表する。（2～4日目 1時間×4時間）
- ④ 各グループで最終発表リハーサルを行う。（4日目 2時間）
- ⑤ 学校の体育館に集まり発表を行い、各グループが発表の準備をする。（園内校は1ヶ月程度前に出席してあるものとする。）（各5日目 2時間）
- ⑥ 自分のグループの演奏がたいへん感動的だったと感じる記入し、つづいて園長先生にグループの1人6名がたいへん印象を受けた。最初のグループは、最後のグループが行う。（感想文提出は1ヶ月の時間をかける。）
4. 授業後のフォロー：音楽に出席してはじめての園児1、2と園長の様子から、生徒一人一人の課題の取り組み方について見えてくるように考える。

2019年度基礎ゼミ（後編担当）20190701

プロジェクト型学習の提案

学路番号:

(課題)

「あなたは、中学時代の教師に頼まれて、母校で1週間(5日間)、プロジェクト型学習を企画・運営することになりました。どんな企画にするか、以下の点に留意して提案してください。」

①テーマ・内容 (どんな経験させたいか、それを通じてどんな力を身につけさせたいか)

②プログラム内訳 (どのように、何と、どのように学ぶか)

※校外学習の機会なども入れ込むといいですよ。予算などは無視して下さい。

③成果 (最終的に、どのような成果に結実させるか) 壁新聞、レポート、発表会 etc

※本シートは15頁にアップしてあります。

※本シートは ISTU にもアップしておきます。

- ② 7-マ、おま
- ① 10月10日の製作を通じ、グループ活動の役割分担を分掌し、
(チームワーク)を身に付け、プロジェクトの役割分担を、その中で役割分担に
加えて行う。
- ② 10月11日 午後
- 重要事項の10月10日の製作、10月11日(土)日の製作、10月12日(日)日の製作、
10月13日(月)日の製作、10月14日(火)日の製作、10月15日(水)日の製作、
10月16日(木)日の製作、10月17日(金)日の製作、10月18日(土)日の製作、
10月19日(日)日の製作、10月20日(月)日の製作、10月21日(火)日の製作、
10月22日(水)日の製作、10月23日(木)日の製作、10月24日(金)日の製作、
10月25日(土)日の製作、10月26日(日)日の製作、10月27日(月)日の製作、
10月28日(火)日の製作、10月29日(水)日の製作、10月30日(木)日の製作、
10月31日(金)日の製作、11月1日(土)日の製作、11月2日(日)日の製作、
11月3日(月)日の製作、11月4日(火)日の製作、11月5日(水)日の製作、
11月6日(木)日の製作、11月7日(金)日の製作、11月8日(土)日の製作、
11月9日(日)日の製作、11月10日(月)日の製作、11月11日(火)日の製作、
11月12日(水)日の製作、11月13日(木)日の製作、11月14日(金)日の製作、
11月15日(土)日の製作、11月16日(日)日の製作、11月17日(月)日の製作、
11月18日(火)日の製作、11月19日(水)日の製作、11月20日(木)日の製作、
11月21日(金)日の製作、11月22日(土)日の製作、11月23日(日)日の製作、
11月24日(月)日の製作、11月25日(火)日の製作、11月26日(水)日の製作、
11月27日(木)日の製作、11月28日(金)日の製作、11月29日(土)日の製作、
11月30日(日)日の製作、11月31日(月)日の製作、12月1日(火)日の製作、
12月2日(水)日の製作、12月3日(木)日の製作、12月4日(金)日の製作、
12月5日(土)日の製作、12月6日(日)日の製作、12月7日(月)日の製作、
12月8日(火)日の製作、12月9日(水)日の製作、12月10日(木)日の製作、
12月11日(金)日の製作、12月12日(土)日の製作、12月13日(日)日の製作、
12月14日(月)日の製作、12月15日(火)日の製作、12月16日(水)日の製作、
12月17日(木)日の製作、12月18日(金)日の製作、12月19日(土)日の製作、
12月20日(日)日の製作、12月21日(月)日の製作、12月22日(火)日の製作、
12月23日(水)日の製作、12月24日(木)日の製作、12月25日(金)日の製作、
12月26日(土)日の製作、12月27日(日)日の製作、12月28日(月)日の製作、
12月29日(火)日の製作、12月30日(水)日の製作、12月31日(木)日の製作、
1月1日(金)日の製作、1月2日(土)日の製作、1月3日(日)日の製作、
1月4日(月)日の製作、1月5日(火)日の製作、1月6日(水)日の製作、
1月7日(木)日の製作、1月8日(金)日の製作、1月9日(土)日の製作、
1月10日(日)日の製作、1月11日(月)日の製作、1月12日(火)日の製作、
1月13日(水)日の製作、1月14日(木)日の製作、1月15日(金)日の製作、
1月16日(土)日の製作、1月17日(日)日の製作、1月18日(月)日の製作、
1月19日(火)日の製作、1月20日(水)日の製作、1月21日(木)日の製作、
1月22日(金)日の製作、1月23日(土)日の製作、1月24日(日)日の製作、
1月25日(月)日の製作、1月26日(火)日の製作、1月27日(水)日の製作、
1月28日(木)日の製作、1月29日(金)日の製作、1月30日(土)日の製作、
1月31日(日)日の製作、2月1日(月)日の製作、2月2日(火)日の製作、
2月3日(水)日の製作、2月4日(木)日の製作、2月5日(金)日の製作、
2月6日(土)日の製作、2月7日(日)日の製作、2月8日(月)日の製作、
2月9日(火)日の製作、2月10日(水)日の製作、2月11日(木)日の製作、
2月12日(金)日の製作、2月13日(土)日の製作、2月14日(日)日の製作、
2月15日(月)日の製作、2月16日(火)日の製作、2月17日(水)日の製作、
2月18日(木)日の製作、2月19日(金)日の製作、2月20日(土)日の製作、
2月21日(日)日の製作、2月22日(月)日の製作、2月23日(火)日の製作、
2月24日(水)日の製作、2月25日(木)日の製作、2月26日(金)日の製作、
2月27日(土)日の製作、2月28日(日)日の製作、2月29日(月)日の製作、
2月30日(火)日の製作、3月1日(水)日の製作、3月2日(木)日の製作、
3月3日(金)日の製作、3月4日(土)日の製作、3月5日(日)日の製作、
3月6日(月)日の製作、3月7日(火)日の製作、3月8日(水)日の製作、
3月9日(木)日の製作、3月10日(金)日の製作、3月11日(土)日の製作、
3月12日(日)日の製作、3月13日(月)日の製作、3月14日(火)日の製作、
3月15日(水)日の製作、3月16日(木)日の製作、3月17日(金)日の製作、
3月18日(土)日の製作、3月19日(日)日の製作、3月20日(月)日の製作、
3月21日(火)日の製作、3月22日(水)日の製作、3月23日(木)日の製作、
3月24日(金)日の製作、3月25日(土)日の製作、3月26日(日)日の製作、
3月27日(月)日の製作、3月28日(火)日の製作、3月29日(水)日の製作、
3月30日(木)日の製作、3月31日(金)日の製作、4月1日(土)日の製作、
4月2日(日)日の製作、4月3日(月)日の製作、4月4日(火)日の製作、
4月5日(水)日の製作、4月6日(木)日の製作、4月7日(金)日の製作、
4月8日(土)日の製作、4月9日(日)日の製作、4月10日(月)日の製作、
4月11日(火)日の製作、4月12日(水)日の製作、4月13日(木)日の製作、
4月14日(金)日の製作、4月15日(土)日の製作、4月16日(日)日の製作、
4月17日(月)日の製作、4月18日(火)日の製作、4月19日(水)日の製作、
4月20日(木)日の製作、4月21日(金)日の製作、4月22日(土)日の製作、
4月23日(日)日の製作、4月24日(月)日の製作、4月25日(火)日の製作、
4月26日(水)日の製作、4月27日(木)日の製作、4月28日(金)日の製作、
4月29日(土)日の製作、4月30日(日)日の製作、4月31日(月)日の製作、
5月1日(火)日の製作、5月2日(水)日の製作、5月3日(木)日の製作、
5月4日(金)日の製作、5月5日(土)日の製作、5月6日(日)日の製作、
5月7日(月)日の製作、5月8日(火)日の製作、5月9日(水)日の製作、
5月10日(木)日の製作、5月11日(金)日の製作、5月12日(土)日の製作、
5月13日(日)日の製作、5月14日(月)日の製作、5月15日(火)日の製作、
5月16日(水)日の製作、5月17日(木)日の製作、5月18日(金)日の製作、
5月19日(土)日の製作、5月20日(日)日の製作、5月21日(月)日の製作、
5月22日(火)日の製作、5月23日(水)日の製作、5月24日(木)日の製作、
5月25日(金)日の製作、5月26日(土)日の製作、5月27日(日)日の製作、
5月28日(月)日の製作、5月29日(火)日の製作、5月30日(水)日の製作、
5月31日(木)日の製作、6月1日(金)日の製作、6月2日(土)日の製作、
6月3日(日)日の製作、6月4日(月)日の製作、6月5日(火)日の製作、
6月6日(水)日の製作、6月7日(木)日の製作、6月8日(金)日の製作、
6月9日(土)日の製作、6月10日(日)日の製作、6月11日(月)日の製作、
6月12日(火)日の製作、6月13日(水)日の製作、6月14日(木)日の製作、
6月15日(金)日の製作、6月16日(土)日の製作、6月17日(日)日の製作、
6月18日(月)日の製作、6月19日(火)日の製作、6月20日(水)日の製作、
6月21日(木)日の製作、6月22日(金)日の製作、6月23日(土)日の製作、
6月24日(日)日の製作、6月25日(月)日の製作、6月26日(火)日の製作、
6月27日(水)日の製作、6月28日(木)日の製作、6月29日(金)日の製作、
6月30日(土)日の製作、6月31日(日)日の製作、7月1日(月)日の製作、
7月2日(火)日の製作、7月3日(水)日の製作、7月4日(木)日の製作、
7月5日(金)日の製作、7月6日(土)日の製作、7月7日(日)日の製作、
7月8日(月)日の製作、7月9日(火)日の製作、7月10日(水)日の製作、
7月11日(木)日の製作、7月12日(金)日の製作、7月13日(土)日の製作、
7月14日(日)日の製作、7月15日(月)日の製作、7月16日(火)日の製作、
7月17日(水)日の製作、7月18日(木)日の製作、7月19日(金)日の製作、
7月20日(土)日の製作、7月21日(日)日の製作、7月22日(月)日の製作、
7月23日(火)日の製作、7月24日(水)日の製作、7月25日(木)日の製作、
7月26日(金)日の製作、7月27日(土)日の製作、7月28日(日)日の製作、
7月29日(月)日の製作、7月30日(火)日の製作、7月31日(水)日の製作、
8月1日(木)日の製作、8月2日(金)日の製作、8月3日(土)日の製作、
8月4日(日)日の製作、8月5日(月)日の製作、8月6日(火)日の製作、
8月7日(水)日の製作、8月8日(木)日の製作、8月9日(金)日の製作、
8月10日(土)日の製作、8月11日(日)日の製作、8月12日(月)日の製作、
8月13日(火)日の製作、8月14日(水)日の製作、8月15日(木)日の製作、
8月16日(金)日の製作、8月17日(土)日の製作、8月18日(日)日の製作、
8月19日(月)日の製作、8月20日(火)日の製作、8月21日(水)日の製作、
8月22日(木)日の製作、8月23日(金)日の製作、8月24日(土)日の製作、
8月25日(日)日の製作、8月26日(月)日の製作、8月27日(火)日の製作、
8月28日(水)日の製作、8月29日(木)日の製作、8月30日(金)日の製作、
8月31日(土)日の製作、9月1日(日)日の製作、9月2日(月)日の製作、
9月3日(火)日の製作、9月4日(水)日の製作、9月

4) 実施授業の全体の流れ

- 第12, 13回（ブックレビュー大会）の流れ
- 教育に関する書籍（新書など）を一人1冊採り上げ、フォーマットに沿ってレジユメを作成する。
- 持ち時間は一人5～7分程度。発表が終わったら、全員が1分でショートコメントを書く。
（各回ともに、A4用紙を八つ切りにしたコメントシートを10～11枚準備、コメントを入れる封筒を10～11枚準備）
→自分の発表に対して全員からフィードバックがもらえる。

25

「ブックレビュー用フォーマット」

ブックレビュー用フォーマット（共通の観点）

- 以下の項目についてワード等でレジユメを作成してください。
（提出の際は、可能ならばPDF化して送ること。できなければ、ワードのままで構いません。）
- 分量はA4（40字×40行＝1600字）で2頁以内とします。

0) 学籍番号・氏名

1) 書誌情報：例）著者（出版年）『著書名』出版社。

2) 本書の目的（序章 or 「はじめに」などに書かれている）

3) 要約（目的に対して、どのような考察や結論が述べられているか。全体の要約が難しい場合は、各章ごとの要約でもよい。ただし簡潔に！）

4) 面白かった点、「なるほど」と思った点（抜き書き）
→抜き書きした部分に対して、簡単なコメントを付ける（なぜ面白いと感じたか）。

5) 疑問点（抜き書き）＜あれば＞
→抜き書きした部分に対して、簡単なコメントを付ける（どこに疑問を感じたか）。

6) 感想（現在の教育・学校を見直すうえで、どんな知見が得られたか。それを踏まえて、何を考えたか。）（最低400字程度）

参考資料：『東北大学レポート指南書 [第2版]』14-15 頁

26

4) 実施授業の全体の流れ

- 最終レポート課題
- 「今、教育や学校の何が変わるべきなのか。これまでに読んだ本や論文、記事を引用・批判しつつ、自分の意見を述べよ。」
- 分量：3000字程度。（A4用紙3頁程度、PDFで提出）
- 提出期限：8月12日（月）
- 提出先：ISTUで提出。

27

5) 授業の組み立て方法

①グループの作り方

- 基本グループを前半（2～5回）と後半（7～11回）で設定する（後半でシャッフル。学部のバランスを考慮して教員があらかじめ決める）。
- 毎回、授業開始時にはこのグループで座っているようにする。
- 時々ワールドカフェを実施してマンネリ化を防ぐ。

②課題図書を読み合わせとポイント解説

- 文系では大事な研究活動である「読書会」を体験させることが目的。
- ただし、ただ読んでこいと伝えても読まないのので、ワークシートを作成して記入させ、授業内ではそれを発表させる形を採った。

【例】ワークシートの項目：①面白かった点・なるほど思った点、②疑問点・調べたこと、③全体的な感想

28

5) 授業の組み立て方法

③グループワーク (GW) の基本方針

- GWの基本は「①個人作業」→「②グループ内共有」→「③全体共有」
※ワールドカフェにすると③を省略できる。
- 読んできた内容に基づいてGWを実施する＝必然性のあるGWの実施
(「なぜ、今ここで、これをするのか」を明確にする。場合によってはきちんと説明する。)
- 「問い」の質に気をつける。
【例】経験→感情→思考→判断(規範)
⇒いきなり「思考」を問うのではなく、「経験」や「感情」を問うことから入る。

29

5) 授業の組み立て方法

④宿題のあり方

- GWの内容を自然と「振り返る」ような課題にする(話し合いを踏まえないと書けないようにする)。
※「何のための話し合いなのか」がはっきりする。
【例】
 - ①「問いのブレイクダウン」ワーク→宿題でも実施
 - ②プロジェクト型学習の経験・改善点を話し合い→自分なりに提案

30

6) 学生の主体性を育むために工夫した点／方策

- 宿題はできるだけ読み合わせる機会を設ける
(やってないと授業に積極的に参加できない→ほぼ全員読んでくる)。
→宿題をやってこない学生にはどうするか？
①遅れてもよいので提出を求める
②宿題が手元にない状態で、可能な範囲の参加を求める
(引け目を感じる→次回からは真剣に取り組んでくる)。
- GWに参加しようとししない学生をどうするか？
→あまりそういうケースはなかったが、1・2度なら問題にしない(たまたま気持ちが落ちているだけの可能性)。
あまりに続くようなら、授業終了後に呼び止めて、話を
する。

31

6) 学生の主体性を育むために工夫した点／方策

- GW中は、できるだけ作業を遮らない(「問い」の質が悪く、話し合いの方向性が定まっていな時に限る)。
→全体に介入が必要なときは、口頭で説明するのではなく、黒板に大きく描いてから伝達する。
- GWの作業課題は、PPTで常に明示しておく。
【例】
①小・中・高の「総合的な学習の時間」で印象に残っている活動はありますか。良かった・勉強になった、と思うものを思い出してグループで共有しましょう。
②逆に、良くなかった・意味がなかったと思う活動があれば、どうすればよいものになるか、グループで考えてみましょう。
→グループ内の話し合いが脱線しても、自分たちで方向修正する。

32

6) 学生の主体性を育むために工夫した点／方策

- GWの時間はタイマーを明示する。

【例】 5分刻みの手動式タイマー

→GW中の学生は、残り時間を見ながら、話し合いの進み具合を勝手に調整してくれる。

→なぜ手動？こちらのさじ加減で進み具合を調整できるから。

33

ご静聴ありがとうございました。

34

4. グループディスカッション

—学生の主体性を育む授業方法—

A～Cの3グループに分かれ、事例報告者を交え、授業の工夫等について意見交換を行った。

《 グループディスカッション ―学生の主体性を育む授業方法― 》

◇講師の実践事例報告に対する質疑応答・補足説明の時間を設け、フリーディスカッション形式で、受講学生の主体性を育む上で特に工夫した点などを確認する。

◇TA、ゼミ生が参加するグループでは、TA やゼミ生からも授業改善のための意見を出してもらう。

◇参加者の討議内容は世話教員がまとめ、世話教員が全体討議において報告する。

[A グループ]：(講師) 田中香津生	(世話教員) 中川 学
[B グループ]：(講師) 米澤 千夏	(世話教員) 山内 保典
[C グループ]：(講師) 後藤 武俊	(世話教員) 佐藤 智子
(全体の世話教員) 岡田 有司	

◎進行予定表 (15:10～16:00)

ステップ	予定時間	時刻
I グループ作業	35 分	15:10～15:45
1 実践事例報告をめぐる質疑応答・補足説明		
2 討議		
3 まとめ		
II 全体討議	15 分	15:45～16:00
各グループ報告	3分×3 グループ	
質疑応答	2分×3 グループ	

基礎ゼミ FD ワークシート

所属・氏名 ()

- 基礎ゼミ FD を受けながら、来年度の基礎ゼミ案についてメモしてきましょう

①基礎ゼミのテーマ・概要		
②基礎ゼミの目標＊東北大学のディプロマポリシー(学位授与の方針)では「知識」「能力」「態度」の3領域から学習成果が捉えられています。複数の領域に関する目標を設定しましょう。		
「知識」＊専門知識だけでなく、今後の大学での学びに必要な知識も考慮してみてください	「能力」＊専門的な技能だけでなく、思考力・判断力・表現力等の汎用的な能力も考慮してみてください	「態度」＊主体性や多様性の理解、他者との協同等、授業を通じて培われる態度について考慮してみてください
③成績評価の方法：目標設定の次に重要なことは、その目標が達成できたかどうかをどのように評価するかです。必要だと思われる評価方法をチェックしましょう		
☐ 中間レポート ☐ 期末レポート ☐ 中間テスト(解答記述式) ☐ 中間テスト(論述形式) ☐ 期末テスト(穴埋め形式) ☐ 期末テスト(論述形式) ☐ プレゼンテーション ☐ ミニットペーパー ☐ その他成果物		
④授業方法・内容の工夫：目標を達成するためどのような授業方法・内容が必要かを考えましょう		

5. アンケート集計結果

第13回東北大学

「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップアンケート

今後の「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD を計画するうえで参考と致しますので、アンケートにご協力をよろしくお願い致します。

◇ 1 から 6 の問いについては該当する数字を○で囲み、ご意見のある方は自由記述欄にお書き下さい。

1 基礎ゼミ又は展開ゼミ担当経験の有無についてお聞きします。

1. 初めて 2. 1 回経験 3. 2 回以上経験

2 今回のFDで知りたかった、参考にしたかった内容は何ですか。当てはまるものすべてを選択してください。

1. 初年次学生への対応 2. シラバス作成のポイント 3. 授業テーマの設定
4. 授業の組み立て方 5. 「学びの転換」の育み方 6. 「主体性」の育み方
7. その他（具体的に）_____

3 オリエンテーションでは、基礎ゼミ及び展開ゼミの意義や実施上の留意点等を確認できましたか。

1. できた 2. どちらともいえない 3. できなかった

自由記述欄（具体的に）_____

4 「ゼミ実践事例の報告」では必要な情報を獲得できましたか。

1. できた 2. どちらともいえない 3. できなかった

自由記述欄（具体的に）_____

5 講演「配慮を要する学生の理解と対応」では必要な情報を獲得できましたか。

1. できた 2. どちらともいえない 3. できなかった

自由記述欄（具体的に）_____

6 グループワークを通して、ゼミを設計し実施するための情報が獲得できましたか。

1. できた 2. どちらともいえない 3. できなかった 4. 参加しなかった

自由記述欄（具体的に）_____

7 次の点についてご回答ください。(1)FD への参加により学んだこと、(2)課題として残されたこと、は何ですか。また、(3)今後、提供して欲しい情報は何か。

(1) _____

(2) _____

(3) _____

※ アンケートへのご協力ありがとうございました。

※アンケート結果

「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD 参加者数 58 名。回答者数 28 名。
以下、【 】内は回答数と回答数に対する割合（%）

第 13 回東北大学

「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップアンケート

今後の「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD を計画するうえで参考と致しますので、アンケートにご協力をよろしくお願い致します。

◇ 1 から 6 の問いについては該当する数字を○で囲み、ご意見のある方は自由記述欄にお書き下さい。

1 基礎ゼミ又は展開ゼミ担当経験の有無についてお聞きます。

1. 初めて【20(71.4%)】 2. 1 回経験【4(14.3%)】 3. 2 回以上経験【4(14.3%)】
4. 無回答【0(0.0%)】

2 今回のFDで知りたかった、参考にしたかった内容は何ですか。当てはまるものすべてを選択してください。

1. 初年次学生への対応【6(21.4%)】 2. シラバス作成のポイント【16(57.1%)】
3. 授業テーマの設定【11(39.3%)】 4. 授業の組み立て方【20(71.4%)】
5. 「学びの転換」の育み方【4(14.3%)】 6. 「主体性」の育み方【5(17.9%)】
7. その他【1(3.6%)】（具体的に）・交通費について
8. 無回答【0(0.0%)】

3 オリエンテーションでは、基礎ゼミ及び展開ゼミの意義や実施上の留意点等を確認できましたか。

1. できた【24(85.7%)】 2. どちらともいえない【4(14.3%)】
3. できなかった【0(0.0%)】 4. 無回答【0(0.0%)】

自由記述欄（具体的に）

- 学びの転換であること
- フィールドワーク以外に全く予算がないことには驚きました。大学として余力を入れていないということを理解しました。

4 「ゼミ実践事例の報告」では必要な情報を獲得できましたか。

1. できた【19(67.9%)】 2. どちらともいえない【7(25.0%)】
3. できなかった【0(0.0%)】 4. 無回答【2(7.1%)】

自由記述欄（具体的に）

- このような形式で受講した経験がない為、どう行えば良いか分からない。
- 失敗談の方が役に立つかも。
- 臨機応変 時空の歪み
- 教員がどれだけ、どの様に力を入れるかよくわかりました。

5 講演「配慮を要する学生の理解と対応」では必要な情報を獲得できましたか。

1. できた【26(92.9%)】 2. どちらともいえない【1(3.6%)】
3. できなかった【0(0.0%)】 4. 無回答【1(3.6%)】

自由記述欄（具体的に）

- 常識的な話ばかり。具体的な対処法を知りたい。
- 担任制度はないのでしょうか。大学全体の中での担当教員の義務が不明でした。

6 グループワークを通して、ゼミを設計し実施するための情報が獲得できましたか。

1. できた【15(53.6%)】 2. どちらともいえない【3(10.7%)】
3. できなかった【0(0.0%)】 4. 参加しなかった【5(17.9%)】
5. 無回答【5(17.9%)】

自由記述欄（具体的に）

- 講師の先生の形に近いものが理想でしたので大変良かったです。

7 次の点についてご回答ください。

(1)「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FDへの参加により学んだこと、とは何ですか。

- シラバスの作成の留意点、実践方法のヒント
- 2の質疑で、説明済みのことに対しての質問が多く、質問前にはしっかり吟味する必要性を学びました。
- 基礎ゼミの目的・目標など
- 「主体的・対話的な深い学び」という文言
- 物品・材料に対して経費が支出されない事
- 学生の主体性を重視する
- 授業設計のポイントが各々異なるため、参考になった
- ディスカッションツール slack の存在
- 思っていた以上に授業の組み立てに多様な方法があることを知った
- 基礎ゼミの組み立て方、運営のツール（slack）の使用
- 学生の主体的学びを引き出すこと
- 想定に近い形の参考例があり大変助かりました。
- テーマ設定の重要性
- 非常に先進的なテーマと方法でゼミを運営している人がいることを知った
- グループワークへの注意点

- 授業設計の固め方・柔んな対応の仕方

(2) 課題として残されたこと、は何ですか。

- 評価の留意点
- 前項に関して、質疑のやり方を見直しても良いかもしれません。(例) 質疑の時間を設けないで、オンラインで(メールで)受けつけるなど。
- 実習の費用(消耗品)などが研究室持ちなど、運営上の問題(注意点)があること
- 費用負担!
- シラバスの作成
- ゼミの進行やまとめる方法が、まだ想像つかない
- グループワークをどのように行うか
- 実際、人数がわからない段階での組み立て、準備のむづかしさ。
- それをどう実現するか
- 教育には最低限の資本投下をお願いします。教員”研究費”を”教育”に使うことはできません。
- テーマの設定
- 人数・学生の情報が時前にない問題をどう処理・対処するか?

(3) 今後、提供して欲しい情報は何か。

- 同上(評価の留意点ー編集者)
- 授業で学生さんが研究成果を出して、それを対外発表(学会、論文誌)したいときのガイドラインのようなものがあると良いかもしれません。
- 実際の講義の内容など
- 具体的にどのように評価しているのか、わかりにくかった。
- 過去の事例をもう少し多く(それぞれ短時間でよいので)
- 既に提供されているのですが日程が合わず、シラバス作成、授業設計のFDに出られていないので、複数回実施いただくと助かります。
- 事例報告、集中講義事例も挙げていただくと良いと思います。
- 授業評価をどうしているか
- 他のゼミの進行状況(ちょっと無理かも知れませんが・・・)
- クォーターや集中講義とした場合の事例
- 集中・宿泊型の基礎ゼミに関する情報

編集：東北大学教育・学生支援部教務課全学教育企画係

IEHE Report 83*

第13回東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップー報告書ー

2020年（令和2年）3月 発行

東 北 大 学 学 務 審 議 会
東北大学高度教養教育・学生支援機構

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41 TEL 022-795-7551

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/>

*No.55 以前は、CAHE TOHOKU Report として刊行

FACULTY DEVELOPMENT